

精神保健福祉総合センター 所 報

令和2年度版
(令和元年度実績)

京都府精神保健福祉総合センター

目 次

I センター概要

1	目 的	-----	1
2	沿 革	-----	1
3	組織等	-----	2
4	施 設	-----	3
5	決 算	-----	4

II 事業概要

1	技術援助・技術指導	-----	6
2	教育研修	-----	1 4
3	普及啓発	-----	1 7
4	精神保健福祉相談	-----	2 1
5	調査研究	-----	2 5
6	組織育成	-----	2 6
7	依存症・摂食障害相談指導事業	-----	2 7
8	思春期・青年期精神保健福祉相談業務	-----	3 2
9	自殺対策事業	-----	3 3
1 0	精神障害者アウトリーチ関連事業	-----	3 6
1 1	心の健康づくり推進事業等	-----	3 7
1 2	通報処理	-----	4 1
1 3	実地指導・実地審査	-----	4 2
1 4	精神医療審査会	-----	4 3
1 5	自立支援医療費支給（精神通院医療）	-----	4 4
1 6	精神障害者保健福祉手帳	-----	4 5
1 7	精神障害者就労支援	-----	4 6
1 8	デイ・ケア事業	-----	4 7
1 9	災害支援	-----	5 6
※	京都府精神保健福祉総合センター 一般用リーフレット（平成25年度作成）	-----	5 8
※	京都府精神保健福祉総合センター パンフレット（平成30年度改訂版）	-----	5 9

巻 頭 あ い さ つ

(発刊にあたって)

この度、当センターの令和元年度の実績を、所報としてお届けいたします。当センターの活動に御協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

最近の精神保健福祉をめぐる問題としては、災害時メンタルヘルス、依存症対策、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築など多々ありますが、元年度は7月18日に京都において「京都アニメーション火災」が起きました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆さまにお悔やみを申し上げます。また、負傷された皆さまの1日も早いご回復を心からお祈りいたします。この痛ましい事件に際し、被害に遭われた方やご遺族・ご家族、京都アニメーションの関係者、事故現場周辺に居住されている方、現場を目撃された方、救助活動に当たった方などを対象に、当センター内に「大規模事件・事故こころの相談窓口」を7月26日に設置し、こころのケアにあたりました。

依存症対策では、府内主要駅における啓発ポスターの掲出やデジタルサイネージを行いました。当センターが京都府の依存症相談拠点機関に指定された30年度から開始した啓発事業ですが、元年度は掲出場所を増やして、正しい知識の普及と早期の相談・治療を広く府民に呼びかけました。

精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築事業では、精神障害者の家族にも対応した支援体制「本人も家族もまるごと支援」の推進のため、ケアラーアセスメント票(平成30年度作成)を活用するためのガイドラインづくり・支援者向け研修会を開催しました。さらに、ピアサポーター活動普及のため、府内のピアサポーター活動を行っている事業所や活動内容を把握し、ピアサポーターどうしの交流・情報交換のため研修会を開催しました。

また、当センターは診療機能・リハビリテーション機能をもち、30年以上にわたってデイ・ケアを実施してきましたが、発達障害をもつ利用者の増加に合わせて、元年度からは発達障害向けプログラムを2グループでの実施としています。

29年度から同志社大学と共同で取り組んでいる「こどものためのメンタルヘルス予防教育プログラムの社会実装」では、多くの学校の先生方のご協力のもと、元年度は24校でプログラムを実施していただきました。また、プログラム指導者の養成研修会を実施し、今後はプログラム指導者による指導を目指しています。

この他にも、当センターの業務は、知識の普及、調査研究、精神保健福祉に関する相談指導、精神医療審査会の事務、精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療(精神通院)の判定、市町村への技術援助、精神科病院実地指導など多岐にわたります。件数の増加と内容の複雑化・多様化の中、工夫しながら取り組んでいます。

いずれの事業も関係諸機関との連携と府民の皆様のご協力なしには成り立ちません。今後とも皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 2年 7月

京都府精神保健福祉総合センター

所 長 中 村 佳 永 子

1 目 的

(平成12年 京都府条例第3号)

京都府精神保健福祉総合センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第6条第1項の規定により設置された機関であり、京都府行政機関設置条例（平成12年京都府条例第3号）において、その名称、位置及び所管区域を定めている。

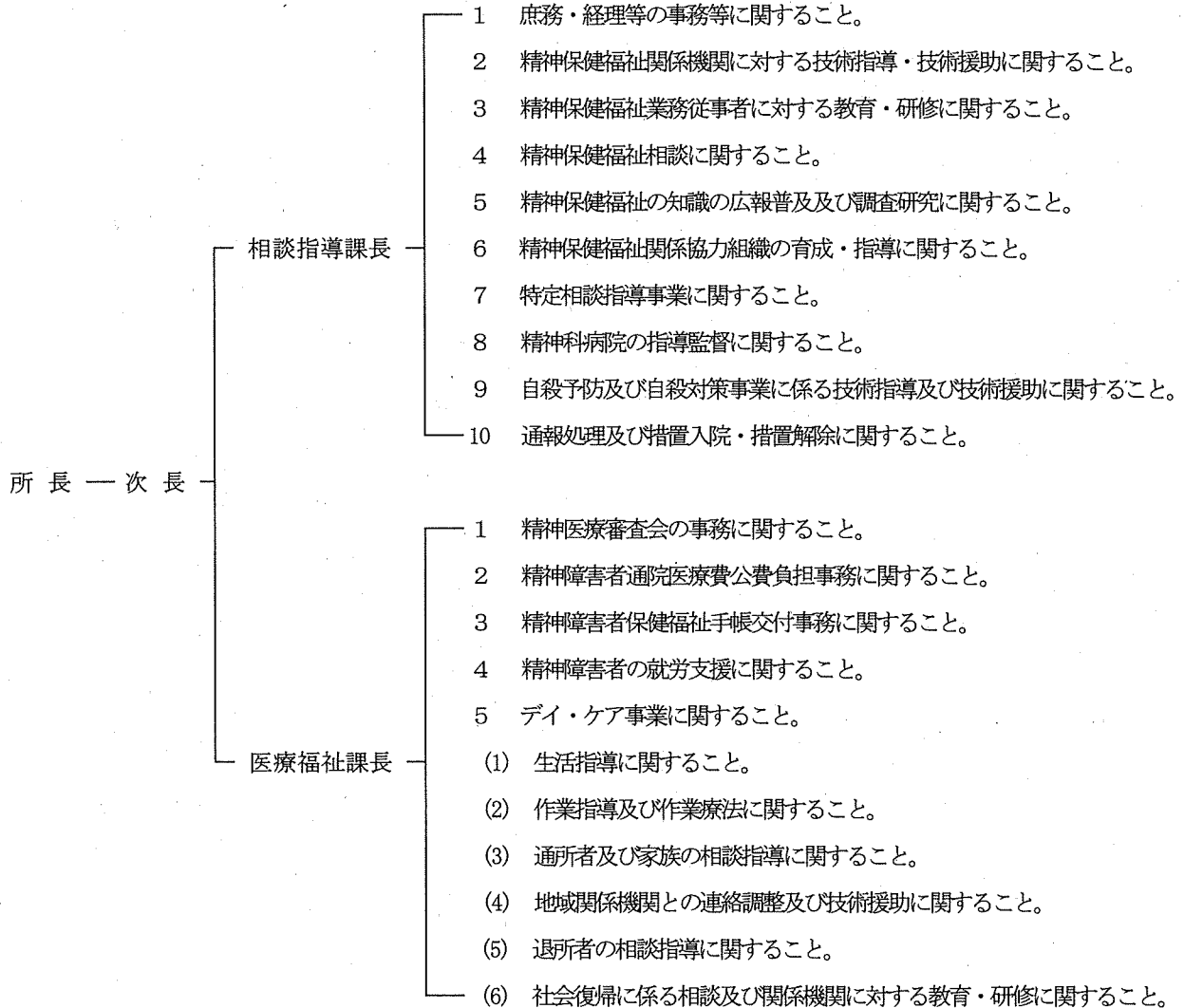
名 称	京都府精神保健福祉総合センター
位 置	京都市伏見区
所管区域	京都市を除く府の全区域

2 沿 革

- ★ 昭和56年11月 4日 京都府精神衛生センター建設工事着工
- ★ 昭和57年 3月25日 同工事完成
- ★ 昭和57年 3月29日 京都府精神衛生センター条例公布
(昭和57年6月17日施行)
- ★ 昭和57年 6月17日 京都府精神衛生センター開設
常勤職員6名、非常勤職員5名、計11名
(療養取扱機関(全国取扱)・保険医療機関・生活保護法による医療機関)
- ★ 昭和60年10月12日 デイ・ケア施設整備事業工事着工
- ★ 昭和61年 3月25日 同工事完成
- ★ 昭和61年 3月31日 京都府立精神衛生総合センター条例公布
(昭和61年6月17日施行)
- ★ 昭和61年 6月17日 「京都府立精神衛生総合センター」と改称
(京都府組織規程の一部を改正する規則)
相談指導課、デイ・ケア課の2課制
常勤職員10名、非常勤職員12名、計22名
- ★ 昭和61年 8月 1日 デイ・ケア通所開始
- ★ 昭和61年12月 1日 健康保険法による運動療法等の施設基準
(精神科デイ・ケア)の実施承認
- ★ 昭和63年 7月 1日 精神保健法施行と併せ「京都府立精神保健総合センター」と改称(京都府組織規程の一部を改正する規則)
- ★ 平成 3年 3月28日 「心の相談電話」設置
- ★ 平成 4年 9月 2日 「京都府立精神保健総合センター10周年記念式典」挙
- ★ 平成 7年 7月11日 精神保健法の一部改正に併せ「京都府立精神保健福祉総合センター」と改称(京都府組織規程の一部を改正する規則)
- ★ 平成14年 4月 1日 精神保健法の一部改正に併せ「京都府精神保健福祉総合センター」と改称(京都府組織規程の一部を改正する規則)
- ★ 平成15年 4月 1日 「デイ・ケア課」を「医療福祉課」と改称
- ★ 平成17年 6月15日 「京都府ひきこもり相談支援センター」設置
- ★ 平成18年12月 7日 「自殺相談」開始
- ★ 平成21年10月 1日 「自殺ストップセンター」を当センター内に開設
(平成24年度～ 地域福祉推進課所管)
- ★ 平成22年 6月 1日 「京都府ひきこもり相談支援センター」が家庭支援総合センター内に移転
- ★ 平成25年 6月 3日 発達障害者支援センター「はばたき」が当センター内へ移転

3 組 織 等

(1) 機構及び課別所管業務



(2) 職種別勤務職員数

(令和 2年 6月 15日 現在 単位:人)

職 種	医 師	精神保 健福祉 相談員等	臨 床 心 理 技 術 者	看 護 師	作 業 療 法 士	事 務 職 員	運 転 技 術 員	計
職 員 (うち再任用)	3	2	2(1)	2(1)	1	3	0	13(2)
会計年度任用職員	0	4	3	3	0	2	1	13
非常勤特別職	2	0	0	0	0	0	0	2
計	5	6	5(1)	5(1)	1	5	1	28(2)

(注) 精神保健福祉相談員等には、就労支援アドバイザーを含む

4 施 設

(1) 所在地 京都市伏見区竹田流池町120番地

(2) 敷地面積 2,881.08㎡

(3) 建 物

種 別	構 造	建築面積 (㎡)	延床面積 (㎡)
本 館	鉄筋コンクリート造2階建	830.24	1,597.22 センター部分 591.80 デック部分 1,005.42
車 庫	鉄骨造平屋建	19.95	19.95
自転車置場	鉄骨造平屋建、軽量鉄骨造平屋建	14.31	14.31
L P G 庫	コンクリートブロック造平屋建	2.99	2.99
焼 成 室	コンクリートブロック造平屋建	5.48	5.48
倉 庫	鉄筋コンクリート造地下1階建	4.99	38.90
計		877.96	1,678.85

5 決算

令和元年度の収支状況
(一般会計収入)

(単位：千円)

区 分	調 定 額	収入済額 A	前 年 度 収入済額 B	収入済額 の 増 減 A - B	比 率 A / B (%)	増 減 の 主な理由
(分担金及び負担金)	0	0	0	0		
公衆衛生費負担金	0	0	0	0		
(使用料及び手数料)	15,023	15,023	16,998	△1,975	88.4	診療報酬の減
公衆衛生使用料	15,023	15,023	16,998	△1,975	88.4	
(諸 収 入)	251	251	1,645	△1,394	15.3	委託研究費の減
雑 入	251	251	1,645	△1,394	15.3	
合 計	15,274	15,274	18,643	△3,369	81.9	
前 年 度 合 計	18,643	18,643				
差 引 増 減	△3,369	△3,369				

(一般会計支出)

(単位：千円)

区 分	公 所 配当額	支出済額 A	前 年 度 支出済額 B	支出済額 の 増 減 A - B	比 率 A / B (%)	増 減 の 主な理由
衛 生 費	86,260	86,260	86,741	△481	99.4	扶助費の減
民 生 費	1,972,088	1,972,088	1,922,490	49,598	102.6	扶助費の増
総 務 費	0	0	378	△378	0	修繕料の減
合 計	2,058,348	2,058,348	2,009,609	48,739	102.4	
前 年 度 合 計	2,009,609	2,009,609				
差 引 増 減	48,739	48,739				

<衛生費の主なもの>

・報酬（非常勤職員分）	24,595千円
・報酬（審査会・鑑定分）	3,304千円
・共済費（非常勤職員・臨時職員分）	3,917千円
・報償費	14,834千円
・旅費	2,382千円
・需用費	9,172千円
・役務費	3,537千円
・扶助費	16,497千円

<民生費の主なもの>

・委託料（自立支援医療（精神通院））	22,929千円
・委託料（庁舎清掃等）	2,194千円
・扶助費	1,944,777千円

凡 例

1. 特にことわりのない場合、平成31年度・令和元年度（平成31年4月から令和2年3月）の状況を令和2年3月31日現在でまとめたものである。
2. 年度表記は令和元年度に統一した。
3. 敬称は略す。

事業概要

1 技術援助・技術指導

(1) 目的

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導及び技術援助を行う。

(「精神保健福祉センター運営要領」平成8年1月19日、健医発第57号)

(2) 事業の内容

① 技術援助・技術指導件数の推移

年度	保健所	市町村	福祉事務所	医療施設	その他	合計
29年度	18	16	0	36	211	281
30年度	8	9	0	6	187	210
元年度	2	5	0	9	163	179

※令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「JPはあとふるカレッジ」をはじめとする各講座が中止となったこと等により件数減。

② 技術援助分類別

	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	その他	合計
保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
市町村	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	5
福祉事務所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療施設	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	5	9
介護老人保健施設	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
障害者支援施設	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
社会福祉施設	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
その他	0	19	0	4	0	5	8	0	3	0	0	120	159
合計	0	25	1	5	0	6	10	0	5	0	0	127	179

③ 技術援助対応状況

電話	来所	出張	合計
11	9	159	179

④ 技術援助・対象機関別形態内容

区分	保健所	市町村	福祉事務所	医療施設	介護老人保健施設	障害者支援施設	社会福祉施設	その他	合計
精神保健 福祉事業	企画指導	0	0	0	0	0	0	2	2
	運営指導	0	0	0	0	0	2	0	3
ケース コンサルテーション	0	0	0	0	0	0	0	6	6
事例検討	1	0	0	0	0	0	0	14	16
研修会講師派遣	0	0	0	1	0	0	0	61	63
委員会等出席	0	3	0	4	0	0	0	54	61
知識・情報の提供	1	1	0	3	0	0	0	16	21
学生講義	0	0	0	0	0	0	0	3	3
その他	0	0	0	1	0	0	0	3	4
合計	2	4	0	9	0	2	2	160	179

⑤ 委員会等参加・援助内容 (※構成役員としての出席を含む)

委員会等	回数	担当
京都府社会福祉協議会 契約締結審査会	12	所長
京都府メンタルヘルス専門委員会	9	所長
京都府職員健康審査会・メンタルヘルス専門員会	9	所長
京都府社会福祉審議会 児童福祉専門分科会	1	所長
京都府社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 措置審査部会	5	所長
京都府精神保健福祉協会 理事会・総会	3	所長
京都府医療観察制度運営連絡協議会	1	所長
日本公衆衛生学会総会 学術部会、実行委員会	2	所長
京都府薬物乱用対策推進本部会議	1	所長
亀岡市セーフコミュニティ推進協議会	1	所長
亀岡市セーフコミュニティ自殺対策委員会(WG会議)	1	所長
京都府社会福祉協議会 地域福祉権利養護事業連絡会議	1	所長
京都デイ・ケア連絡会運営委員会	3	医療福祉課長
障害者雇用関係調整者会議	7	医療福祉課員
児童思春期のこころの診療ネットワーク会議	1	相談指導課員
心神喪失者等医療観察法関係研究協議会	1	相談指導課員
依存症者支援実務者連絡会議	1	相談指導課員
薬物依存症治療連絡会議	1	相談指導課員
精神保健医療福祉施策に関する要望会議	1	相談指導課員
合計	61	

⑥ 講師派遣 63件

日時	会場	実施内容	参加者
平成31年4月16日(火) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「怒りの気持ちをコントロールする」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 9名
平成31年4月23日(火) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「返事に困った時どうする？」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 5名
平成31年4月26日(金) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「再発予防について」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 6名
令和元年5月14日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「健康管理と睡眠」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 6名
令和元年5月20日(月) 13時00分～14時30分	府立京都障害者 高等技術専門校 (京都市)	キャリア・プログラム科セミナー 「ストレス対処法」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	キャリア・プロ グラム科 8名
令和元年5月21日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「障害とつきあいながら働く」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 9名
令和元年5月28日(火) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「心配ごとを伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 5名
令和元年5月31日(金) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「怒りの気持ちを伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 4名
令和元年6月3日(月) 13時00分～14時30分	府立京都障害者 高等技術専門校 (京都市)	キャリア・プログラム科セミナー 「自分の障害特性を伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	キャリア・プロ グラム科 8名
令和元年6月11日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「自分の障害特性を伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 7名
令和元年6月13日(木) 13時00分～15時00分	やよい工房 久貝事業所 (長岡京市)	出前語らい 「ストレスと上手につきあう」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	やよい工房久貝 事業所 15名

日 時	会 場	実 施 内 容	参 加 者
令和元年6月14日(金) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「事実を反した非難に対応する」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 5名
令和元年6月18日(火) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「返事に困った時どうする？」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 4名
令和元年6月28日(金) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「ストレスと上手につきあう」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 7名
令和元年7月9日(火) 13時00分～16時00分	府立京都障害者 高等技術専門校 (京都市)	キャリア・プログラム科セミナー 「ストレス状況から離れる」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	キャリア・プロ グラム科 6名
令和元年7月16日(火) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「健康管理と睡眠」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 7名
令和元年7月23日(火) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「返事に困った時どうする？」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 4名
令和元年7月26日(金) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「障害とつきあいながら働く」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 8名
令和元年7月30日(火) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「怒りの気持ちを伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 3名
令和元年8月2日(金) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「事実を反した非難に対応する」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 4名
令和元年8月6日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「再発予防について」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 3名
令和元年8月14日(水) 18時30分～19時30分	京都府立医大 (京都市)	「精神保健福祉法」 医療福祉課 主任医師 山下 誉子	研修医、薬剤師 等 6名
令和元年8月20日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「ストレス状況から離れる」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 4名

日 時	会 場	実 施 内 容	参 加 者
令和元年8月27日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「障害とつきあいながら働く」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 5名
令和元年9月3日(火) 13時30分～15時00分	寄り添い支援 センター (京丹後市)	出張JPはあとふるカレッジ 「返事に困った時どうする？」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふるコーナ ー、寄り添い支援 センター 7名
令和元年9月6日(金) 14時00分～15時00分	府精神保健福祉 総合センター	近畿ブロック精神保健福祉センター長会 「発達障害専門プログラムを用いた発達障害者 支援」 医療福祉課長 中嶋 義幸 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラ ムの実装」 相談指導課長 村澤 孝子	近畿ブロック精 神保健福祉セン ター長等 16名
令和元年9月10日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「返事に困った時どうする？」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 4名
令和元年9月12日(木) 18時30分～20時00分	テレコムセン タービル (東京都)	小児科4学会合同研修会 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラ ムの実装」 相談指導課長 村澤 孝子	小児科4学会 約20名
令和元年9月13日(金) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「自分の障害特性を伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 6名
令和元年9月14日(土) 13時30分～15時30分	明治大学リバ ティタワー (東京都)	未来の先生展 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラ ムの実装」 相談指導課長 村澤 孝子	学生、教員、 教育関係者等 約70名
令和元年9月21日(土) 14時00分～16時00分	京都教育大学 (京都市)	三大学合同 認知発達研究会 「子どもの認知の発達とリジリエンスプログラム」 相談指導課長 村澤 孝子	京都大学、金沢 大学、京都教育 大学 心理学部 教授等 約60名
令和元年9月27日(金) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「ストレス状況から離れる」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 5名
令和元年10月8日(火) 13時00分～14時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「苦情を言う」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 4名

日 時	会 場	実 施 内 容	参 加 者
令和元年10月15日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「障害とつきあいながら働く」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 4名
令和元年10月25日(金) 13時00分～14時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「再発予防について」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 5名
令和元年10月28日(月) 13時30分～15時00分	府立南陽高校 (木津川市)	山城管内学校保健会合同研修会 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラムの実装」 相談指導課長 村澤 孝子	小中高校教員、 教育関係者等 約80名
令和元年10月31日(木) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「話し合って折り合う」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 2名
令和元年11月12日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「苦情を言う」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 2名
令和元年11月14日(木) 10時20分～12時30分	京都府国民健康保険団体連 合会 (京都市)	京都府市町村保健師協議会研修会 「精神疾患のいま ～ケースとの関わりにつなげる～」 相談指導課 副主査 高田 亮	京都府市町村保 健師協議会 約60名
令和元年11月15日(金) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「健康管理と睡眠」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 2名
令和元年11月20日(水) 13時30分～15時30分	福知山市立夜 久野小学校 (福知山市)	福知山市 RISTEXプログラム説明会 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラムについて」 相談指導課長 村澤 孝子	夜久野小学校、 市教育委員会 約40名
令和元年11月22日(金) 13時30分～15時00分	寄り添い支援 センター (京丹後市)	出張JPはあとふるカレッジ 「怒りの気持ちを伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふるコーナ ー、寄り添い支援 センター 11名
令和元年11月25日(月) 13時00分～14時30分	府立京都障害者 高等技術専門校 (京都市)	キャリア・プログラム科セミナー 「ストレスと上手につきあう」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	キャリア・プロ グラム科 5名

日時	会場	実施内容	参加者
令和元年11月25日(月) 13時30分～16時00分	男山公民館 (八幡市)	ささえびと啓発講座 「精神障がいのある人と家族が『あたりまえの生活』を送るために」 相談指導課 副主査 高田 亮	精神障がいの者の自立をささえる会 「ささえびと」会員等 約40名
令和元年11月26日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「自分の障害特性を伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふるコーナー 2名
令和元年11月28日(木) 10時10分～11時40分	府立京都障害者高等技術専門校 (京都市)	キャリア・プログラム科セミナー 「自分の障害特性を伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	キャリア・プログラム科 5名
令和元年11月29日(金) 14時30分～18時20分	ハートピア京都(京都市)	こころの健康づくり大会・京都2019 シンポジウム 座長 「権利擁護のための様々な取組と課題」 所長 中村 佳永子	京都精神保健福祉協会 約50名
令和元年11月29日(金) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「事実を反した非難に対応する」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふるコーナー 3名
令和元年12月3日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「障害とつきあいながら働く」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふるコーナー 3名
令和元年12月6日(金) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「苦情を言う」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふるコーナー 4名
令和元年12月13日(金) 13時30分～15時00分	デイケアなごみ(福知山市)	出張JPはあとふるカレッジ 「障害とつきあいながら働く」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふるコーナー、デイケアなごみ 12名
令和元年12月18日(水) 14時00分～16時30分	中丹東保健所 (舞鶴市)	「家族が求める家族支援」研修会 「ケアラーアセスメント票の活用」 相談指導課 副主査 高田 亮	関係機関、家族等 約40名
令和元年12月24日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「ストレスと上手につきあう」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふるコーナー 7名
令和2年1月14日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「話し合って折り合う」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふるコーナー 5名

日 時	会 場	実 施 内 容	参 加 者
令和2年1月20日(月) 10時30分～16時00分	京都テルサ (京都市)	第4回生活困窮者自立支援機関従事者研修 リレー報告と個別相談会 「精神保健福祉総合センターの紹介」 相談指導課 副主査 高田 亮	関係機関、関係 団体等 28名
令和2年1月21日(火) 15時00分～16時30分	京都テルサ (京都市)	JPあとふるカレッジ 「自分の障害特性を伝える」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 5名
令和2年1月22日(水) 14時00分～16時30分	府精神保健福祉 総合センター	「家族が求める家族支援」研修会 「ケアラーアセスメント票の活用」 相談指導課 副主査 高田 亮	関係機関、家族 等 約70名
令和2年1月23日(木) 10時10分～11時40分	府立京都障害者 高等技術専門校 (京都市)	キャリア・プログラム科セミナー 「ストレス状況から離れる」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	キャリア・プロ グラム科 5名
令和2年1月23日(木) 18時10分～19時40分	京都ノートルダ ム女子大学 (京都市)	いのちのリレー講座 「自死予防について考える」 所長 中村 佳永子	学生、一般市民 8名
令和2年1月28日(火) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「怒りと上手につきあう」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 7名
令和2年1月29日(水) 13時00分～14時00分	キャンパスプラ ザ京都 (京都市)	行政相談委員集合研修 「対応に困る方々への関わりについて」 相談指導課 副主査 高田 亮	行政相談委員 64名
令和2年1月31日(金) 10時00分～11時30分	京都テルサ (京都市)	JPはあとふるカレッジ 「再発予防について」 医療福祉課 嘱託 田中 英里子	はあとふる コーナー 6名
令和2年2月21日(金) 13時30分～15時00分	亀岡市市民交 流センター (亀岡市)	亀岡市学校保健研究大会 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラ ムの実装について」 相談指導課長 村澤 孝子	教育関係者 約80名

2 教育研修

(1) 目的

保健所、市町村、福祉事務所、社会復帰施設その他の関係諸機関等で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の教育研修を行い、技術的水準の向上を図る。

(「精神保健福祉センター運営要領」平成8年1月19日、健医発第57号)

(2) 事業の内容

① 教育研修件数の推移

*デイ・ケアの実習・見学を含む

年度	研修会		学生講義・実習		関係機関職員見学		合計	
	延日数	参加延人数	延日数	参加延人数	延日数	参加延人数	延日数	参加延人数
29年度	11	176	5	385	0	0	16	561
30年度	5	98	18	168	0	0	23	266
元年度	12	211	15	90	1	14	28	315

② 研修会の開催

*研修会の実績

研修会名	実施日数	受講者
精神保健福祉研修Ⅰ(基礎) 北部・南部で各3日間	6日間	保健、医療、福祉関係者等
「子どものためのメンタルヘルス予防教育プロジェクト」タスクフォース養成研修会 前期・後期で各3日間	6日間	教育、保健、福祉関係者等

※精神保健福祉研修(実践・専門)は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。

*関係機関別出席状況

区分	精神保健福祉研修Ⅰ (基礎) 延べ人数	「子どものためのメンタルヘルス 予防教育プロジェクト」タスク フォース養成研修会 延べ人数
保健所	1	0
市町村	9	11
医療施設	18	0
社会福祉施設	8	16
その他	12	136
合計	48	163

※「子どものためのメンタルヘルス予防教育プロジェクト」タスクフォース養成研修会における「その他」区分について、内訳として教育関係機関117人、それ以外19人を計上。

③-1 精神保健福祉研修 I (基礎) : 北部 会場 : 中丹勤労者福祉会館

	日時	実施内容	参加人数
1日目	令和元年9月12日(木) 13:00~16:10	講義:こころの病気の理解と対応 講師:京都府精神保健福祉総合センター 医療福祉課 主任医師 山下 誉子 講義:精神保健福祉の歴史と現状 講師:京都府中丹西保健所 主査 八尾 博士	8名
2日目	令和元年9月19日(木) 13:00~16:10	講義:面接をするための工夫 講師:京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫 講義:面接をするための工夫(演習) 講師:京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫	6名
3日目	令和元年10月3日(木) 13:00~16:10	講義:地域で使える社会資源について 講師:京都府中丹東保健所 主査 石原 智 講義:ひきこもり支援の実際 講師:京都府脱ひきこもり支援センター 副主査 廣田 和之 講義:障害福祉サービス事業所の実際 講師:ワークショップサクラティエ 施設長、利用者 (計3名)	7名

③-2 精神保健福祉研修 I (基礎) : 南部 会場 : 精神保健福祉総合センター

	日時	実施内容	参加人数
1日目	令和元年9月9日(月) 13:30~16:40	講義:こころの病気の理解と対応 講師:京都府精神保健福祉総合センター 医療福祉課 主任医師 山下 誉子 講義:精神保健福祉の歴史と現状 講師:京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫	8名
2日目	令和元年9月17日(火) 13:30~16:40	講義:面接をするための工夫 講師:京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫 講義:面接をするための工夫(演習) 講師:京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫	8名
3日目	令和元年10月1日(火) 13:30~16:40	講義:地域で使える社会資源について 講師:京都府山城南保健所 副主査 矢田 和也 講義:ひきこもり支援の実際 講師:京都府脱ひきこもり支援センター 副主査 廣田 和之 講義:障害福祉サービス事業所の実際 講師:NPO法人ブラッツ こころく 就労支援員、利用者 (計4名)	11名

④ 精神保健福祉研修 (実践・専門)

日時	会場	実施内容	参加者
令和2年3月9日(月) 10時20分~15時40分	メルパルク京都	①講義:「ファミリーワーク~本人も家族もまるごと支援するために大切な視点~」(仮) 講師:京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 福祉生活デザイン学科 准教授 佐藤純 氏 ②講義:「家族アセスメントについて~本人を含む家族本来の力を活性化するために~」(仮) 講師:日本福祉大学 看護学部 教授 長江美代子 氏 ③事例検討:「アウトリーチで本人も家族もまるごと支援する」 事例提供者:医療法人栄仁会 相談支援事業所 おうばく	中止

※精神保健福祉研修 (実践・専門) は、令和2年3月9日(月)、メルパルク京都にて実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。

⑤ 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム」タスクフォース養成研修会
(RISTEX社会実装プロジェクト)

	日時	会場	実施内容	参加人数
前期	1日目 令和元年7月26日(金) 13:30~16:00	同志社大学 今出川キャンパス	講義:子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム タスクフォース養成研修会 講師:同志社大学心理学部 教授 石川 信一 氏	36名
	講義:メンタルヘルス予防教育プログラム ワーク編①② 講師:同志社大学 研究開発推進機構 特定任用研究員 肥田 乃梨子 氏			
	2日目 令和元年8月23日(金) 13:30~16:00	同志社大学 今出川キャンパス	講義:メンタルヘルス予防教育プログラム ワーク編③④ 講師:同志社大学 研究開発推進機構 特定任用研究員 肥田 乃梨子 氏	38名
3日目 令和元年10月11日(金) 13:30~16:00	講義:子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム 講師:京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課長 村澤 孝子			
後期	1日目 令和元年11月29日(金) 13:30~16:00	市民交流プラザ ふくちやま	講義:子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム 講師:京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課長 村澤 孝子	15名
	2日目 令和元年12月16日(月) 13:30~16:00		講義:メンタルヘルス予防教育プログラム ワーク編①② 講師:同志社大学 研究開発推進機構 特定任用研究員 肥田 乃梨子 氏	
	3日目 令和2年1月20日(月) 13:30~16:00	市民交流プラザ ふくちやま	講義:メンタルヘルス予防教育プログラム ころあつぷタイム第9回~第12回の体験 講師:同志社大学 研究開発推進機構 特定任用研究員 肥田 乃梨子 氏	15名

⑥ 実習等の受け入れ

学生実習 (大学生、大学院生、看護専門学校生等)

区分	社会福祉系	心理系	医学系	合計
実施延日数	1	0	14	15
実施延人数(人)	8	0	82	90

⑦ 発達障害専門プログラム体験会 会場:精神保健福祉総合センター

日時	実施内容	参加人数(名)
令和元年 11月25日(月) 15:00~16:30	発達障害専門プログラムの概要、Good-Badセッションの体験、当デイケアについての説明	11機関14名

3 普及啓発

(1) 目的

都道府県規模で一般住民に対し、精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。

(「精神保健福祉センター運営要領」平成8年1月19日、健医発第57号)

(2) 事業の内容

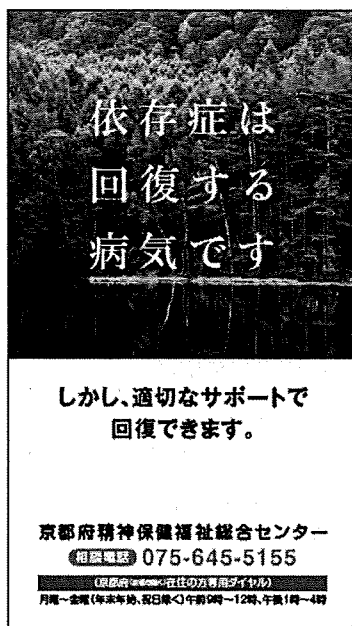
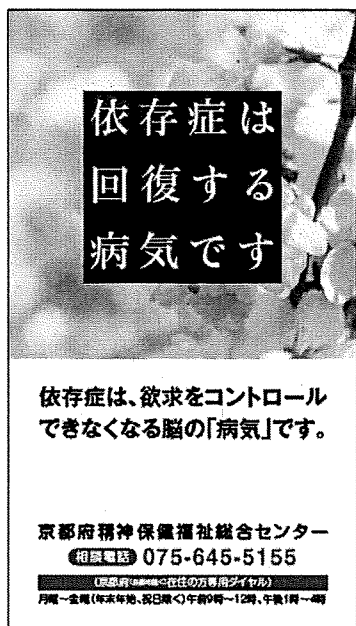
① リーフレットの発行 (既刊を含む)

- ・ 京都府精神保健福祉総合センターのご案内
- ・ 京都府精神保健福祉総合センターご相談のしおり (三つ折りタイプ)
- ・ 依存症は回復する病気です(京都府精神保健福祉総合センター依存症の取り組み)

② 依存症相談啓発事業の一環として、京都駅コトチカビジョンでのデジタルサイネージによる依存症動画掲出 及び 京都府内鉄道駅構内でのポスター掲出

- ・ 京都駅コトチカビジョンでのデジタルサイネージによる依存症動画掲出

期間：令和元年10月28日から令和元年11月12日 (約8分間に2回、1日250回以上)

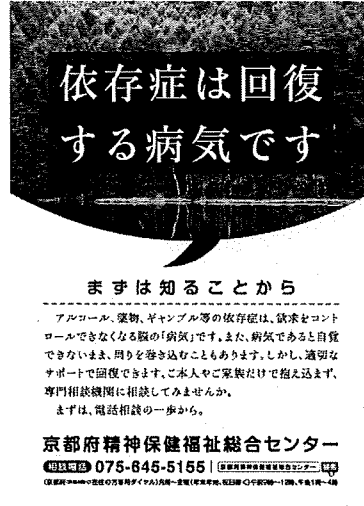


(掲出動画 約15秒間)

・京都府内鉄道駅構内でのポスター掲出

掲出期間：令和元年10月28日から令和元年11月12日のうち2週間

掲出場所：JR西日本（長岡京、山崎、城陽、木津、福知山、綾部、西舞鶴）
近畿日本鉄道（大久保、新田辺、高の原）
京阪電鉄（中書島、淀）ただし、淀駅は11月3日まで1週間
京都丹後鉄道（宮津、峰山）



依存症は回復
する病気です

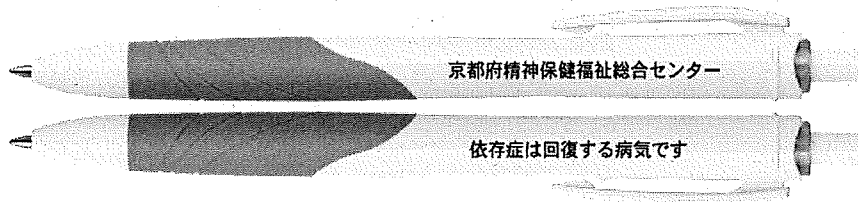
まずは知ることから

アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症は、欲求をコントロールできなくなる脳の「病気」です。また、病気であると自覚できないまま、周りを巻き込むこともあります。しかし、適切なサポートで回復できます。ご本人やご家族だけで抱え込まず、専門相談機関に相談してみませんか。
まずは、電話相談の一步から。

京都府精神保健福祉総合センター
相談電話 075-645-5155 | 相談時間 午前9時～午後5時（土曜、日曜、祝祭日を除く）

③ 啓発用グッズの作成

・依存症は回復する病気です（ボールペン）



④ ホームページ「こころの健康のためのサービスガイド」

（※ホームページ画面については、「11 心の健康づくり推進事業等」参照）

精神保健福祉の普及啓発と関係情報の提供、あるいはストレスや不安を早期に発見して、適切に対処することを目的に、平成16年度からホームページを開設している。平成24年度からは社会資源一覧中の医療機関情報から、該当医療機関へのリンクを貼り利用者の利便性を高めている（ただし、リンク貼り付けを了承した医療機関のみ）。

平成25年度からは、自殺対策の一環として「悩みを抱えた方が集える居場所」を案内するページを新設している。

アドレス	http://www.pref.kyoto.jp/health/	
コンテンツ	心の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期・青年期の心の健康 ・中年期の心の健康 ・統合失調症 ・うつ病(気分障害) ・摂食障害 ・パニック障害 ・社会的ひきこもり ・アルコール問題 ・依存症等の問題 ・ストレス ・災害を体験された方へ ・東日本大震災被災地支援京都府心のケアチーム活動報告書
	自殺対策	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と背景 ・つながって支えあおう ・心の健康チェック ・学校でのいじめ ・職場のストレス ・経済的な問題 ・気分が沈みがち(うつ) ・周囲の人が心がけたいこと ・身近な人が自殺してしまったら ・居場所づくり ・相談窓口一覧
	センターの仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・こころの健康相談電話 ・来所相談 ・精神障害者保健福祉手帳 ・自立支援医療費(精神通院医療) ・精神科デイ・ケア ・発達障害専門プログラム ・教育研修 ・技術援助 ・精神医療審査会
	Q & A	<ul style="list-style-type: none"> ・心の病を持つ方とその家族のためのガイド(準備中)
	社会資源一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・府保健所等 ・市町村役場等 ・社会福祉協議会 ・ハローワーク等 ・職業能力開発 ・年金事務所 ・税務署・法務局等 ・精神医療審査会 ・医療機関(デイ・ナイトケア含む) ・家族会・社会復帰施設等 ・地域別一覧

⑤ 講演会等

- ・自殺予防と自死遺族支援啓発イベント キャンドルナイト「ライフ in 灯(ライト) きょうと2019」(P35参照)
- ・京都府こころの健康セミナー (P28参照)
- ・アルコールと健康を考えるセミナー(南部)、アルコール関連問題セミナー(北部) (P29参照)

4 精神保健福祉相談

(1) 目的

センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを行う。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期、認知症等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施する。センターは、これらの事例についての相談指導を行うためには、総合的技術センターとしての立場から適切な対応を行うとともに、必要に応じて関係諸機関の協力を求めるものとする。

(「精神保健福祉センター運営要領」平成8年1月19日、健医発第57号)

精神保健センターにおいて、専門知識を有する者による面接相談及び電話相談（こころの電話）の窓口を設置し、地域住民が気軽に心の健康づくりについて相談できるような体制を整備する。

(「心の健康づくり推進事業実施要領」昭和60年6月18日、健医発第727号)

(2) 事業の内容

① 精神保健福祉相談件数の推移

年度	電話相談			面接相談					
	延件数			実件数			延件数		
	こころ	デイ・ケア	合計	こころ	デイ・ケア	合計	こころ	デイ・ケア	合計
29	3,023	327	3,350	60	54	114	266	235	501
30	2,695	403	3,098	45	71	116	189	266	455
元	2,769	455	3,224	42	76	118	136	132	268

※こころ：こころの健康相談電話、デイ・ケア：デイ・ケア関係の電話相談

※面接相談：訪問を含む。

※デイ・ケアの電話及び来所相談対応は「18 デイ・ケア事業」(P53)を参照のこと。

② こころの健康相談電話

* 性別・地域別相談件数

区分	合計	男女別			居住地別			
		男	女	不明	京都市	京都府	他府県	不明
延件数	2,769	1,339	1,430	0	207	2,471	46	45

* 電話相談内容

○主たる内容

区分	延人数	(構成比)
老人精神保健	255	(9.2%)
社会復帰	1,817	(65.7%)
依存症	アルコール	23 (0.8%)
	薬物	9 (0.3%)
	ギャンブル	18 (0.7%)
思春期	36	(1.3%)
こころの健康	449	(16.2%)
うつ・うつ状態	61	(2.2%)
摂食障害	12	(0.4%)
てんかん	0	(0.0%)
その他	89	(3.2%)
合計	2,769	(100.0%)

○従となる内容 (複数回答可)

区分	延人数	(構成比)
老人精神保健	5	(0.2%)
社会復帰	8	(0.4%)
依存症	アルコール	4 (0.2%)
	薬物	4 (0.2%)
	ギャンブル	2 (0.1%)
思春期	1	(0.0%)
こころの健康	13	(0.6%)
うつ・うつ状態	105	(4.9%)
摂食障害	0	(0.0%)
てんかん	2	(0.1%)
ひきこもり	8	(0.4%)
発達障害	79	(3.7%)
自殺関連	148	(7.0%)
自死遺族	2	(0.1%)
犯罪被害	0	(0.0%)
災害	10	(0.5%)
その他依存	15	(0.7%)
精神障害	1,721	(80.9%)
合計	2,127	(100.0%)

* 相談時間

区分	件数	(構成比)
0分～10分	944	(34.1%)
11分～20分	639	(23.1%)
21分～30分	527	(19.0%)
31分～60分	577	(20.8%)
61分～	82	(3.0%)
合計	2,769	(100.0%)

* 相談対象者

区分	件数	(構成比)
自分自身	2,461	(88.9%)
親	21	(0.8%)
配偶者	41	(1.5%)
子ども	121	(4.4%)
その他家族・親類	35	(1.3%)
友人・知人	18	(0.7%)
その他	22	(0.8%)
不明	50	(1.8%)
合計	2,769	(100.0%)

* 処遇

区分	件数	(構成比)
来所相談へ	21	(0.8%)
他機関紹介	173	(6.3%)
情報提供	101	(3.6%)
助言指導	1,293	(46.7%)
傾聴のみ	1,178	(42.5%)
その他	3	(0.1%)
合計	2,769	(100.0%)

③ 面接相談
※訪問も含む

* 相談内容（「こころの健康相談電話」に係る面接相談の区分）

区分	実件数	(構成比)	延件数	(構成比)	
こころの健康	9	(21.5%)	36	(26.5%)	
精神障害	5	(11.9%)	53	(39.0%)	
社会復帰	3	(7.1%)	3	(2.2%)	
うつ・うつ状態	3	(7.1%)	3	(2.2%)	
依存症	アルコール	2	(4.8%)	3	(2.2%)
	薬物	6	(14.3%)	15	(11.0%)
	ギャンブル	2	(4.8%)	3	(2.2%)
	その他依存	0	(0.0%)	0	(0.0%)
摂食障害	0	(0.0%)	0	(0.0%)	
思春期	0	(0.0%)	0	(0.0%)	
老人	2	(4.8%)	2	(1.5%)	
ひきこもり	3	(7.1%)	6	(4.4%)	
発達障害	3	(7.1%)	4	(2.9%)	
自殺関連	3	(7.1%)	7	(5.2%)	
その他	1	(2.4%)	1	(0.7%)	
合計	42	(100.0%)	136	(100.0%)	

* 対応

区分	実件数	(構成比)	延件数	(構成比)
相談指導課	42	(35.6%)	136	(50.7%)
医療福祉課	76	(64.4%)	132	(49.3%)
合計	118	(100.0%)	268	(100.0%)

* 相談形態

区分	実件数	(構成比)	延件数	(構成比)
来所	117	(92.9%)	267	(95.7%)
訪問	1	(0.8%)	1	(0.4%)
電話	8	(6.3%)	11	(3.9%)
合計	126	(100.0%)	279	(100.0%)

5 調査研究

(1) 目的

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、都道府県、保健所、市町村等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。

(2) 事業の内容

① 調査研究

i. R I S T E X 戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）

研究開発成果実装支援プログラム

「小学校におけるメンタルヘルスプログラムの実装」

実装責任者 石川 信一 共同実施者 村澤 孝子

② 著書

i. 中村 佳永子、土田 英人、佐藤 昌昭、村澤 孝子、吉村 理世、金子 和夫、河瀬 雅紀 「いのちのリレー講座：京都府での自殺対策」精神科p489-493 通巻203号

2019. 5. 28

ii. 石川 信一、村澤 孝子、神尾 陽子、小國 真由子、肥田 乃梨子 《作成スタッフ》 「こころあっぷタイム メンタルヘルス予防教育プログラム 01～06」RISTEX

2019. 9. 30 完

iii. 村澤 孝子、小國 真由子、中村 佳永子、石川 信一、肥田 乃梨子 「『子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム』の社会実装」公衆衛生情報p20-21 通巻1136号 2019. 12. 15

③ 学会・研究会等発表

i. 丸井 規博、田中 英里子 「京都における精神障害者雇用企業の現状～障害者雇用企業アドバイザー4年の経験から～」 日本精神神経科診療所協会 2019. 2. 10 広島

ii. 中嶋 義幸 「発達障害専門プログラムを用いた発達障害者支援」 近畿ブロック精神保健福祉センター長会及び災害時等対応連絡会議 2019. 9. 6 京都

iii. 村澤 孝子 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム（リジリエンシープログラム）の実装」 近畿ブロック精神保健福祉センター長会及び災害時等対応連絡会議 2019. 9. 6 京都

iv. 村澤 孝子 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム」未来の先生展 2019. 9. 14 東京

v. 高田 亮 「京都府における『本人も家族もまるごと支援』の推進について」 全国精神保健福祉センター研究協議会 2019. 10. 22 高知

vi. 村澤 孝子 「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラムの実装（RISTEXプロジェクト）」 児童思春期・精神保健医療研修会 2019. 11. 23 滋賀

6 組織育成

(1) 目的

地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織的活動が必要である。このため、センターは、家族会、患者会、社会復帰事業団体など都道府県単位の組織の育成に努めるとともに、保健所、市町村並びに地区単位での組織の活動に協力する。

(「精神保健福祉センター運営要領」、平成8年1月19日、健医発第57号)

(2) 事業の内容

組織育成件数の推移(再掲)

年度	29年度	30年度	元年度
組織育成件数	11	14	7

組織育成

協力組織・団体等	内容	回数
京都デイ・ケア連絡会	府内有志精神科デイ・ケアの情報交換と連携	3
断酒会・AA等	記念例会、懇話会等の出席	2
その他の組織・団体等	知識・情報の提供	2
合 計		7

7 依存症・摂食障害相談指導事業

(1) 目的

アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等を含む依存症（以下「依存症」という。）について、医療機関や精神保健福祉センター、保健所、市町村、民間団体・回復施設、保護観察所等が相互に有効かつ緊密に連携し、その責任、昨日又は役割に応じた包括的な支援を提供することで、依存症患者、依存症に関する問題を有する者、依存症になるリスクを有する者及びその家族等の地域におけるニーズに総合的に対応することを目的とする。

（依存症対策総合支援事業実施要綱 平成29年6月13日、障発0613第2号）

さらに、依存症と関連のある摂食障害についても、適切な治療と支援により地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備を推進することが求められている。

(2) 事業の内容

① 依存症に関する知識の普及（再掲・重複を含む）

1 こころの健康相談電話

区分		延人数
依存症	アルコール	27
	薬物	13
	ギャンブル	20
	その他(買い物・ネット等)	15
摂食障害		12
合計		87

2 面接相談

区分		実人数	延人数
依存症	アルコール	2	3
	薬物	6	15
	ギャンブル	2	3
	その他(買い物・ネット等)	0	0
摂食障害		0	0
合計		10	21

② 京都府こころの健康セミナー

目的： 依存症セミナーでは、ギャンブル、薬物、アルコール等の依存症に関する正しい知識の普及と依存症の方の社会復帰の促進を図り、また摂食障害セミナーでは、依存症と関連があり死亡率も高いと言われている摂食障害に関する正しい知識の普及を図ることを目的とする。

更に、依存症や摂食障害の方の家族等が自分自身の悩みや不安を軽減し、心の健康の回復や家族関係の修復を図ることが、依存症や摂食障害がある方自身の回復にも寄与することを学ぶ。

対象： ギャンブル依存、薬物依存、アルコール依存、摂食障害がある方、その家族、保健・医療・福祉関係者

会場： 精神保健福祉総合センター

区分		実施内容	参加者
依存症セミナー	アルコール依存	令和元年 9月12日(木) 講演 テーマ:知って治そう、アルコール依存症 講師:広兼医院 院長 廣兼 元太 氏 体験談 発表:AA、京都府断酒平安会、京都マックの方々	53名
		令和2年 3月6日(金) 講演 テーマ:アルコール依存症～回復に欠かせない人と人のつながり～ 講師:いわくら病院 精神科認定看護師 杉山 昌儀 氏 体験談 発表:AA、京都府断酒平安会、京都マックの方々	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	薬物依存	令和元年 6月7日(金) 講演 テーマ:依存症と私たちの社会 講師:洛南病院 副院長 川畑 俊貴 氏 体験談 発表:木津川ダルク、京都ダルク、ナラノンの方々	32名
		令和元年 10月26日(土) 講演 テーマ:アディクションのメカニズム、そして支援の実際 講師:岡山県精神科医療センター 医局長 橋本 望 氏 体験談 発表:京都ダルク、ナラノン、京都マック、ギャマンの方々 ※ギャンブル依存症セミナーと兼ねて実施	89名
	ギャンブル依存	令和元年 5月20日(月) 講演 テーマ:ギャンブル依存症:ギャンブラーと家族の回復 講師:大谷大学 教授 滝口 直子 氏 体験談 発表:京都マック、GA、ギャマンの方々	31名
		令和元年 10月26日(土) 講演 テーマ:アディクションのメカニズム、そして支援の実際 講師:岡山県精神科医療センター 医局長 橋本 望 氏 体験談 発表:京都ダルク、ナラノン、京都マック、ギャマンの方々 ※薬物依存症セミナーと兼ねて実施	89名
摂食障害セミナー	摂食障害	令和元年 7月4日(木) 講演 テーマ:摂食障害からの回復のステップ ～ご本人・ご家族・支援者の協働～ 講師:京都府立こども発達支援センター 精神科医長 水原 祐起 氏 体験談 発表:あかりプロジェクト、関西OA、京都NABA、京都マック、SEEDきょうとの方々	67名
		令和2年 2月28日(金) 講演 テーマ:摂食障害を考える ～家族にどう理解してもらおうか 家族はどう支えるか～ 講師:安東医院 臨床心理士 工藤 悠世 氏 体験談 発表:あかりプロジェクト、関西OA、京都マック、SEEDきょうとの方々	45名

③ アルコールと健康を考えるセミナー(南部)

目的： 本セミナーは平成19年度から京都府・京都市・NPO法人京都府断酒連合会の三者共催で、京都府民・京都市民を対象に毎年実施している。アルコール関連問題への普及啓発を目的として様々なテーマを設定し、アルコール関連問題に対する認識を深め、正しい知識の普及を図ることにより、アルコール依存症の各種予防対策を効果的に推進し、自助組織の育成に寄与する。

対象： 京都府民・市民、自助グループ会員及びその家族、保健・福祉・医療関係者等

日時	会場	実施内容	参加者
令和元年11月10日(日) 13時30分～16時30分	ウイングス京都 イベントホール	<p>令和元年度 アルコールと健康を考えるセミナー 「お酒と上手につきあうために ～若者にも知ってもらいたい、アルコールのリスクと回復～」</p> <p>1 講演:「若者の飲酒ーイッキ飲み・女子会・ビンジ(無茶飲み)ー」 講師:東海大学健康科学部社会福祉学科 准教授 稗田里香氏</p> <p>2 シンポジウム「若者のいのちを守る取り組み」 シンポジスト: 稗田里香氏(東海大学健康科学部社会福祉学科 准教授) 松田美枝氏(京都文教大学臨床心理学部臨床心理学科 准教授) 学生及び若者 2名 波床将材氏(京都市こころの健康増進センター 所長)</p> <p>休憩時間中「絵本:ボクのことわすれちゃったの?ーお父さんはアルコール依存症ー」を上映</p>	63名

④ アルコール関連問題セミナー(北部)

目的： 北部圏域の当事者及び家族、保健・医療・福祉・行政等職員を対象とし、アルコール依存症とその回復過程について理解を深め、意見交換により関係者相互の連携を強化する。また、北部圏域においてはアルコール依存症者の高齢化や、専門医療機関及び社会資源等が不足しているという課題がある。その中で、地域性を考慮した支援のかたちについて、講演及びグループワークを通して学ぶことを目的とする。

日時	会場	実施内容	参加者
令和元年11月21日(木) 13時00分～16時00分	舞鶴市西駅交流 センター 3階ホール	<p>令和元年度 アルコール関連問題セミナー テーマ:「アルコール依存症からの回復～地域の理解・連携と支援～」</p> <p>1. 講演:「アルコール問題にどう関わればいいのか?～それぞれにできること～」 講師:松浦 千恵 氏 (安東医院 医療福祉相談室長)</p> <p>2. グループワーク</p>	38名

⑤ 薬物問題家族教室

目的： 薬物問題を抱えた方について悩まれている家族等が、薬物依存症に関する正しい知識や対応方法を学ぶ。また、そのなかで自身の悩みや不安を軽減し、こころの健康の回復や家族関係の改善を図り、さらに薬物依存症本人の回復にも役立つことを学ぶ機会とする。

対象： 家族等、大切な人の薬物問題で悩んでいる京都府民で守秘義務等の約束事を守れる方。全回を通しての参加が望ましいが、部分的な参加も可とする。(定員：10名)

会場： 精神保健福祉総合センター

日時	実施内容	参加人数
令和元年 6月7日(金)	講義 テーマ:薬物依存症の基礎知識(※薬物依存症セミナーと兼ねて実施) 講師:洛南病院 副院長 川畑 俊貴 氏 体験談発表:京都ダルク、木津川ダルク、ナラノの方々	
令和元年 7月16日(火)	講義 テーマ:薬物依存症の基礎知識 講師:当所職員	4名
令和元年 9月17日(火)	講義 テーマ:コミュニケーション・スキルの練習～本人への関わり方～ 講師:当所職員	2名
令和元年 10月15日(火)	講義 テーマ:「セルフケア」「回復の多様性と社会資源」 講師:当所職員	1名
令和元年 11月19日(火)	講義 テーマ:支援者にきいてみよう① 講師:京都ダルク 共同施設長 太田 実男 氏	1名
令和元年 12月10日(金)	講義 テーマ:支援者にきいてみよう② 講師:京都保護観察所 統括保護観察官 増井 久輝 氏	4名
令和2年 2月18日(火)	テーマ:まとめと振り返り	2名

⑥ 薬物依存症支援者研修会 (年2回)

平成29年度から府内依存症相談従事者が依存症の正しい理解と対応を学ぶため開催している。

日時	実施内容	参加人数
令和元年 7月29日(月) 13時30分～15時	講演 テーマ:更正保護施設の業務と社会復帰支援 講師:更正保護法人西本願寺「白光荘」 施設長 石田 陽子 氏	21名
令和元年 10月26日(土) 13時30分 ～16時30分	講演 テーマ:アディクションのメカニズム、そして支援の実際 講師:岡山県精神科医療センター 医局長 橋本 望 氏 ※こころの健康セミナーと兼ねて実施	89名 (一般参加 含む)

⑦ 保護観察所との薬物依存症事例検討会兼交流会（年1回）

平成29年度から、京都保護観察所と相互に知り合い、顔の見える円滑な連携体制構築の一助として当所にて開催している。当所の職員研修を兼ねて実施している。

日時	実施内容	参加人数
令和元年 10月18日(金) 14時30分 ～16時30分	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関 活動紹介 ・事例検討 事例提供: 京都保護観察所 ・3グループでディスカッション (事例提供は保護観察所と輪番制としている) ・参加者は、当所職員、京都保護観察所職員、府内依存症専門医療機関、回復施設・自助グループ、保健所等である。 	当所職員 京都保護観察所 保護観察官等 18名

⑧ 技術援助（再掲）

区分	アルコール	薬物
保健所	0	0
市町村	1	0
福祉事務所	0	0
医療施設	0	1
介護老人施設	0	0
障害者支援施設	0	0
社会福祉施設	0	0
その他	0	4
合計	1	5

8 思春期・青年期精神保健福祉相談業務

(1) 目的

精神保健福祉総合センターでは、地域精神保健福祉業務の一環として、思春期精神保健に関する知識の普及や相談指導等の総合的対策を実施することによって、精神発達の途上にある者の精神的健康の保持・増進及び適応障害の予防と早期発見を図ることを目的として事業を行っている。

(2) 事業の内容 (再掲)

① 相談 (再掲)

相談区分	面接相談	電話相談	合計
実件数	0		0
延件数	0	37	37

② 思春期・青年期技術援助 (再掲)

区分	思春期
保健所	0
市町村	0
医療施設	1
その他	5
児童相談所	0
警察	0
教育関係	5
合計	6

9 自殺対策事業

(1) 目的

京都府内では平成10年以降、毎年600人以上の方が自殺に追い込まれるという痛ましい状況が続いていたが、平成24年以降は減少傾向を辿り、令和元年度は323人となった。

しかしながら、毎日1人の方が自ら命を絶っている深刻な状況は続いており、また、自殺未遂者や遺された家族、知人等、自殺により深刻な影響を受ける方々を含めると、自殺問題は我が国が直面する大きな課題である。

当センターでは、自殺対策基本法に基づき、自殺を個人的な問題ではなく社会的な問題であり、総合的な対策を実施することで防ぐことができるという認識に基づき諸対策を推進している。

(2) 精神保健福祉総合センターにおける事業の内容

① 技術援助（再掲）

区分	自殺関連
保健所	0
市町村	2
福祉事務所	0
医療施設	0
介護老人保健施設	0
障害者支援施設	0
社会福祉施設	0
その他	3
合計	5

※「その他」は、自殺ストップセンターを含む。

② 自殺ストップセンターに対する技術援助

◆事例検討会

自殺ストップセンター相談員を対象に、月1回程度（2時間程度）開催されている。

※令和元年度：全10回開催（時間：17:30～19:30）

当センターの医師、精神保健福祉相談員又は臨床心理技術者が、要請に応じて出席又は事前の技術指導等を実施している。

③ かかりつけ医・産業医うつ病対応力向上研修

当センター、京都市こころの健康増進センター、京都府医師会と3者共催による、内科・産婦人科等のかかりつけ医及び産業医を対象とした研修会を開催。なお、昨年度と同様、南部開催は衛生管理者も対象とした。

日時	会場	実施内容	参加者
(南部開催) 令和元年10月31日(木) 14時00分～17時00分	京都府医師会館 (京都市)	・講義 ①基礎知識 講師:京都市こころの健康増進センター 所長 波床 将材 ②うつ病の診断 講師:社会福祉法人 京都桂病院 副院長 岸 信之 氏 ③治療とケア・連携 講師:杉本医院からすまメンタルクリニック 院長 杉本 二郎 氏	医師等 44名
(北部開催) 令和元年10月5日(土) 14時00分～17時00分	舞鶴グランドホテル (舞鶴市)	・講義 ①基礎知識 講師:京都府精神保健福祉総合センター 所長 中村 佳永子 ②うつ病の診断 講師:福知山市民病院 精神神経科 医長 鐘 直樹 氏 ③治療とケア・連携 講師:独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター精神科部長 山野 純弘 氏	医師 17名

④ 認知行動療法研修

日時	会場	実施内容	参加者
令和2年2月27日(木) 13時00分～16時00分	精神保健福祉総合センター (京都市)	・講義 「感情のコントロールが苦手な人へのアンガーマネジメント」 講師:早稲田大学 教育学部 教授 本田 恵子 氏	臨床心理士 精神保健福祉士 府内相談従事者等 30名

⑤ キャンドルナイト「ライフ in 灯 (ライト) きょうと 2019」の実施

平成19年度から27年度まで京都市、こころのカフェきょうと、NPO法人自死自殺相談センター(平成23年度から参画)で開催してきた「自殺予防と自死遺族支援のための府民・市民シンポジウム」に代わり、平成28年度から9月10～16日の自殺予防週間中に街頭普及啓発を実施している。京のいのち支え隊の啓発ティッシュ配布も行っている。平成29年度からは、学生団体SMILEが参画し、5者共催となった。

令和元年度は、行政の自殺予防・自殺対策事業及び活動紹介パネル、自死遺族のメッセージ展示の他、iPadを用いたストレスチェック、学生団体SMILE主導のヨガ体験等の体験型イベントを取り入れた。自身や身近な方のしんどい思いに気づき、相談のきっかけづくりを目的とした。

日時	会場	実施内容	共催団体
令和元年9月13日(金) 14時00分～20時30分	ゼスト御池 河原町広場	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の自殺予防自殺対策事業の活動紹介パネル展示 ・自死遺族のメッセージ展示 ・iPadを用いたストレスチェック ・学生団体SMILEによるヨガ体験等の体験型イベント 	<ul style="list-style-type: none"> 【京都府】 健康福祉部地域福祉推進課 精神保健福祉総合センター 【京都市】 障害保健福祉推進室 こころの健康増進センター 【民間団体】 こころのカフェきょうと NPO法人京都自死自殺相談センター 学生団体SMILE

⑥ 自殺対策専門的支援(臨床心理士等派遣)事業(所管:地域福祉推進課)

当センター出講なし

(3) 自殺ストップセンターの設置(所管課:地域福祉推進課)

平成21年10月1日より「京都府自殺ストップセンター」が精神保健福祉総合センター内に設置された。平成24年度から所管課が地域福祉推進課にうつり、京都市を含む京都府内全域から死にたいほどのつらい悩みをもつ方々の相談にのっている。心身の不調や経済・生活問題等複雑な背景を持つ相談には、ストップセンター相談員による面接の他、精神科医、弁護士、司法書士等の専門スタッフで構成される「いのちのサポートチーム」が対応し関係機関と連携を図りながら支援している。

精神保健福祉総合センターは、ストップセンター相談事例への技術援助の面で参画している。

《開設時間》

・電話相談 平日 月～金曜日 午前9時～午後8時

※平成22年度から開設時間を午後5時から8時まで延ばす

※平成27年度から携帯アプリ「LINE」による無料電話相談開設

10 精神障害者アウトリーチ関連事業

長期入院患者等退院後支援事業

(1) 目的

長期入院患者等退院後支援事業は、在宅精神障害者のうち未治療、受療中断している等適切な支援が受けられていない者及び精神科病院における長期入院者等に対し、一般相談支援事業所が精神科病院や保健所等と協力し、医療・保健・福祉等の包括的な支援を多職種、他機関との訪問により実施し、適切なサービスにつなげるほか、長期入院者等の地域移行促進、地域定着及び長期入院の予防を図る。（「長期入院患者等退院後支援業務要綱」）

平成23年度～平成25年度までは、国の精神障害者アウトリーチ推進事業の補助金を活用して、乙訓、山城北圏域で事業を実施してきた。平成27年度～平成29年度までは、より新たに国の地域医療介護総合確保基金を活用としてアウトリーチ推進事業を乙訓、山城北、中丹圏域で実施してきた。

平成30年度から長期入院患者等退院後支援事業（医療法人栄仁会 相談支援事業所おうばくへの委託事業）として、山城北圏域で実施している。

(2) 事業内容

- ① 人材養成研修（下記のとおり実施予定としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。）

日時	会場	実施内容	参加者
令和2年3月9日(月) 10時20分～15時40分	メルパルク 京都	①講義:「ファミリーワーク～本人も家族もまるごと支援をするために大切な視点～」(仮) 講師:京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 福祉生活デザイン学科 准教授 佐藤純 氏 ②講義:「家族アセスメントについて～本人を含む家族本来の力を活性化するために～」(仮) 講師:日本福祉大学 看護学部 教授 長江美代子 氏 ③事例検討:「アウトリーチで本人も家族もまるごと支援する」 事例提供者:医療法人栄仁会 相談支援事業所 おうばく	中止

※教育研修における精神保健福祉研修（実践・専門）の内容と位置付けている。

② 職員派遣

会議名	回数	担当
長期入院患者等退院後支援事業運営会議	2	精神保健福祉相談員
合計	2	

1 1 心の健康づくり推進事業等

1 1 -1 心の健康づくり推進事業

(1) 目的

本事業は、近年の社会生活環境の複雑化等に伴い、国民各層の間においてストレスが増大し、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増加していることにかんがみ、精神保健センターにおいて、これら精神疾患に関する相談窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより、国民の精神的健康の保持増進を図ることを目的とする。

(「心の健康づくり推進事業実施要領」昭和60年6月18日、健医発第727号)

(2) 事業の内容

① こころの健康相談電話の設置

- ・月曜日～金曜日（祝日および年末年始を除く）、午前9時～12時、午後1時～4時。
- ・京都府（京都市を除く）にお住まいの方を対象。

② 専門職員による出前語らいの実施 1件（技術援助・技術指導再掲）

日時	会場	実施内容	参加者
令和元年 6月13日（木） 13:00～15:00	やよい工房 久貝事務所	「ストレスと上手につきあう」 講師：京都府精神保健福祉総合センター 医療福祉課 嘱託 田中英里子	やよい工房 久貝事務所 15名

③ ホームページ「心の健康のためのサービスガイド」

京都市 Kyoto Prefecture Web Site

京都府 | 暮らし | 環境 | 観光 | 文化 | 健康 | 福祉 | 人権 | 産業 | その他 | 防災 | 京都の魅力 | 観光

京都府トップ | 健康 | 医療 | 心の健康のためのサービスガイド

京都府精神保健福祉総合センター 心の健康のためのサービスガイド

文字サイズ 拡大 | 印刷 | 戻る

心の健康について | 自殺対策 | センターの仕事 | Q & A | 社会資源一覧 | アクセス

最新情報

- ※ 令和2年度前期こころの健康セミナーのご案内
- ※ 【重要】精神障害者保健福祉手帳の更新申請の最新情報のお知らせ
- ※ 【重要】自立支援医療費(精神通院)における有効期間の延長について
- ※ 新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大に際するこころの健康について
- ※ 令和2年度大切な人の薬物乱用で悩んでいるおのれ家族支援のご案内(PDF:390KB)
- ※ 令和2年度家族支援相談窓口のご案内(PDF:220KB)
- ※ ティーケア活動のご案内(2020年更新)
- ※ ティーケア利用のご案内(PDF:58KB)
- ※ 発達障害専門プログラムのご案内(PDF:22MB)
- ※ 小学生(中高生)へのサリエンプログラム(メンタルヘルス予防教育プログラム)の普及促進のご案内
- ※ 精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療費についての最新情報(2020年更新)
- ※ 京都府自殺対策センターのご案内

サービスガイド

<p>心の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者・若年層の心の健康 ● 中学生の心の健康 ● 統合失調症のこころ(認知行動療法) ● 摂食障害 ● パニック障害 ● 社会的孤立 ● 依存症等の相談 ● ストレス ● 災害を体験された方へ ● 東日本大震災被災地支援 ● 京都府心のケアチーム活動報告書 	<p>自殺対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現状と背景 ● つながって支えあおう ● 心の健康チェック ● 学校での心の健康チェック ● 経済的な問題 ● 気分が落ち込む(うつ) ● 原因が分からぬこと ● 身近な人が自殺してしまったら ● 愛護所 24時間相談窓口
<p>センターの仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> ● こころの相談窓口 ● 相談窓口 ● 精神障害者保健福祉手帳 ● 自立支援医療費(精神通院医療) ● 精神科クリニック ● 発達障害専門プログラム ● 教育相談 ● 治療相談 ● 精神医療調査 	<p>Q & A</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 心の病を持つ方とその家族のためのガイド(準備中)
<p>社会資源一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 府庁機関 ● 市町村 ● 社会福祉協議会 ● 社会福祉協議会 ● コーポレート等 ● 企業社会貢献 ● 年金事務所 ● 税務署・法務局等 ● 精神医療調査会 ● 医療機関(クリニック等) ● 家族会・社会福祉協議会等 ● 地域活動 	<p>アクセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地図・交通機関

京都府精神保健福祉総合センター (〒612-8414 京都市伏見区竹田流地町1120)
TEL 075-641-1810 / FAX 075-641-1819 / E-mail: info@krcs.kyoto.lg.jp
※ メールでの相談・ご質問にはお答えできませんので、ご了承ください。
(心の健康のための相談には、別途専用電話を御用意願っております)

お問い合わせ | サイトマップ | ご利用案内 | 個人情報保護 | 著作権・リンク | このサイトについて

Copyright (C) Kyoto Prefecture. All Rights Reserved.

当センターでは電子メールでの相談業務は行っていないが、ホームページ上に記載されているメールアドレスにも相談メールがあり、適切な相談先の案内等を回答している。

1 1 - 2 京都府こころの健康推進員事業

(1) 目的

保健所や市町村と連携し、精神障害者や家族からの身近な相談に応じ、地域生活を支援するとともに、精神保健福祉に関する正しい知識の普及を図ることによって、精神障害者の社会復帰と自立を促進する。活動期間は2年間。

(「京都府こころの健康推進員設置要綱」平成10年5月12日)

(2) 配置状況(令和2年3月31日現在)

保健所	乙訓保健所	山城北保健所	山城北保健所 綴喜分室	山城南保健所	南丹保健所	中丹西保健所	中丹東保健所	丹後保健所	合計
配置数(名)	12	20	19	8	13	6	10	13	101

(3) 活動状況

活動内容	平成30年度 (件数)	令和元年度 (件数)
①保健所や市町村が実施する行事や事業に参加協力した	1,189	584
②障害者支援施設等の業務に関する協力支援を行った	502	752
③障害者や家族から相談に応じ、又は助言指導を行った	132	198
④精神障害者に関する正しい知識の普及や偏見・誤解の解消に向けた普及啓発活動を実施又は参加した	48	85
⑤その他(サロン運営・当事者団体への支援など)	715	690

(4) 事業の内容

①京都府こころの健康推進員養成講座

【北部】 会場: 中丹勤労者福祉会館(福知山市)

日時	実施内容	講師・担当者	参加人数	
<第1日目> 令和元年 9月12日(木) 13:00~16:10	こころの病気の理解と対応	京都府精神保健福祉総合センター 医療福祉課 主任医師 山下 誉子	14名	
	精神保健福祉の歴史と現状	京都府中丹西保健所 主査 八尾 博士		
<第2日目> 令和元年 9月19日(木) 13:00~16:10	面接をするための工夫	京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫		
	面接をするための工夫(演習)	京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫		
※第3日目については、現任者研修と同日開催				
<第4日目> 令和元年 10月3日(木) 13:00~16:10	地域で使える社会資源について	京都府中丹東保健所 主査 石原 智		
	ひきこもり支援の実際	京都府脱ひきこもり支援センター 副主査 廣田 和之		
	障害福祉サービス事業所の実際	ワークショップサクラティエ 施設長、利用者(計3名)		
<第5・6日目> 令和元年 10月~11月 (2日間)	各施設にて、施設実習 (市町村グループワーク、精神科デイ・ケア、障害者支援施設等の見学実習)			
<第7日目> 令和元年 12月5日(木) 13:00~16:00	こころの健康推進員活動について	こころの健康推進員 1名 京都府丹後保健所 技師 清水 佳宏		
	講座の振り返り(グループワーク)	京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 高田 亮		
	閉講式、修了証書交付			

【南部】 会場:精神保健福祉総合センター

日時	実施内容	講師・担当者	参加人数
<第1日目> 令和元年 9月9日(月) 13:30~16:40	こころの病気の理解と対応	京都府精神保健福祉総合センター 医療福祉課 主任医師 山下 誉子	14名
	精神保健福祉の歴史と現状	京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫	
<第2日目> 令和元年 9月17日(火) 13:30~16:40	面接をするための工夫	京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫	
	面接をするための工夫(演習)	京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 金子 和夫	
※第3日目については、現任者研修と同日開催			
<第4日目> 令和元年 10月1日(火) 13:30~16:40	地域で使える社会資源について	京都府山城南保健所 副主査 矢田 和也	
	ひきこもり支援の実際	京都府脱ひきこもり支援センター 副主査 廣田 和之	
	障害福祉サービス事業所の実際	NPO法人プラッツ こころく 就労支援員、利用者(計4名)	
<第5・6日目> 令和元年 10月~11月 (2日間)	各施設にて、施設実習 (市町村グループワーク、精神科デイ・ケア、障害者支援施設等の見学実習)		
<第7日目> 令和元年 12月3日(火) 13:30~16:30	こころの健康推進員活動について	こころの健康推進員 1名 京都府乙訓保健所 副主査 田中 満美	
	講座の振り返り(グループワーク)	京都府精神保健福祉総合センター 相談指導課 副主査 高田 亮	
	閉講式、修了証書交付		

②京都府こころの健康推進員現任者研修

日時	会場	実施内容	参加人数
【北部】 令和元年 9月26日(木) 13:00~16:10	中丹勤労者福祉会館	講義「家族支援について」 講師:京都府精神保健福祉総合センター 副主査 高田 亮	13名
		講義「家族の声」 講師:福知山あおば会	
【南部】 令和元年 9月24日(火) 13:30~16:40	京都府精神保健福祉総合センター	講義「家族支援について」 講師:京都府南丹保健所 技師 安藤 朋美	25名
		講義「家族の声」 講師:精神障がい者家族会 親和会	

※①京都府こころの健康推進員養成講座の第1日目、第2日目、第4日目は、精神保健福祉研修Ⅰ(基礎)を兼ねて実施した。養成講座の第3日目は、京都府こころの健康推進員現任者研修を兼ねて実施した。

1 2 通報処理

(1) 目的

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づき、検察官、保護観察所の長及び矯正施設の長の通報を受理し、調査、措置診察の通知や立会及び措置入院の告知を行った。また必要に応じて措置入院のための移送を実施した。(一般人の申請、警察官からの通報及び病院管理者からの届出に関する受理及び調査、指定医診察の立会等については権限移譲により、保健所が実施している。)

また、措置診察の結果に基づき、必要な措置入院の決定にかかる事務を行うとともに、措置入院先である病院の管理者からの届出に基づき、措置解除の決定にかかる事務を行った。

さらには、措置入院先である病院の指定医の診察の結果に基づき、仮退院の許可にかかる事務を行った。

(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第22条～第28条、第29条～第29条の5、第40条)

(2) 事業の内容

① 措置診察と移送

	申請通報届出件数	診察不要	診察実施	診察実施の状況(内訳)			緊急措置入院の状況(再掲)			移送を行った件数		
				29条該当	措置入院以外の入院	入院以外	診察実施	緊急措置入院該当	その後の診察の結果措置入院になった者	調査から1次診察まで	1次診察から2次診察まで	2次診察から病院まで
一般からの申請	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
警察官からの通報	79	15	10	3	7	0	54	16	6	7	0	3
検察官からの通報	9	2	6	5	1	0	0	0	0	0	0	5
保護観察所の長からの通報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
矯正施設の長からの通報	48	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科病院の管理者からの届出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に係る通報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
申請等に基づかない者(法第27条の第2項)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	136	65	16	8	8	0	54	16	6	7	0	8

② 通報処理事務に係る事務処理件数

措置入院決定	緊急措置入院決定	措置入院不要	鑑定不要	措置入院解除	緊急措置入院解除	仮退院	合計
14	16	19	65(内15件は保健所にて処理)	13	10	1	138

③ 検察官通報に係る移送件数及び措置入院者の転院の件数

検察官通報	2次診察場所から措置入院先病院まで	5件
転院	措置入院病院から転院先措置入院病院まで	2件
合計		7件

1 3 実地指導・実地審査

(1) 目 的

精神科病院における適正な医療及び人権に配慮した運営の確保を図る。

(京都府精神科病院実地指導実施要綱、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第38条の6)

(2) 事業の内容

① 精神科病院の実地指導・実地審査 8病院

実地指導日 (定例実施)	病院名	住所	精神科病床数 (総病床数)
令和元年 12月3日(火)	医療法人栄仁会 宇治おうばく病院	京都府宇治市 五ヶ庄三番割32-1	395 (453)
令和元年 12月16日(月)	一般財団法人長岡記念財団 長岡病院	京都府長岡京市 友岡4丁目18-1	441 (441)
令和2年 1月16日(木)	京都府立洛南病院	京都府宇治市 五ヶ庄広岡谷2	256 (256)
令和2年 1月28日(火)	一般財団法人療道協会 西山病院	京都府長岡京市 今里5丁目1-1	256 (256)
令和2年 2月3日(月)	特定医療法人福知会 もみじヶ丘病院	京都府福知山市 荒木3374	380 (380)
令和2年 2月7日(金)	医療法人芳松会 田辺病院	京都府京田辺市 飯岡南原55	109 (291)
令和2年 2月17日(月)	医療法人医誠会 東舞鶴医誠会病院	京都府舞鶴市 大波下765-16	255 (255)
令和2年 2月25日(火)	独立行政法人 国立病院機構 舞鶴医療センター	京都府舞鶴市 行永2410	120 (409)

② 措置入院後3箇月を経過した措置入院者の実地審査 0件

1 4 精神医療審査会

(1) 目 的

精神医療審査会（以下「審査会」という。）は、精神障害者の人権に配慮しつつ、その適正な医療及び保護を確保するために、精神病院に入院している精神障害者の処遇について、専門的かつ独立した機関として審査を行うために設置されたものである。

（「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第12条に規定する精神医療審査会について」平成12年3月28日、障第209号）

(2) 事業の内容

① 審査会の所掌

*開催状況

全 体 会	1回
審 査 会	36回

*審査状況

年 度	定期病状報告		医療保護入院者入院届	前回保留再審査	合 計	退院等の請求
	措置	医療保護				
29	8	660	2,426	0	3,094	79
30	1	639	2,515	0	3,155	84
元	1	649	2,580	0	3,230	94

② 電話相談

*電話相談件数

年 度	退院の相談	処遇改善の相談	そ の 他	合 計
29	66	17	137	220
30	84	18	121	223
元	190	11	89	290

1 5 自立支援医療費支給（精神通院医療）

(1) 目 的

自立支援医療制度は、旧身体障害者福祉法に基づく更生医療、旧児童福祉法に基づく育成医療及び旧精神保健及び精神障害福祉に関する法律に基づく精神障害者通院医療費公費負担制度を一元化し、共通の仕組みとした、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく医療費の費用負担を軽減するための制度である。

精神障害については、通院医療費が対象になっている。

(2) 事業の内容

① 自立支援医療費（精神通院医療）の状況

年 度	申 請 数	承 認 数
29	21,489	21,488
30	22,128	22,125
元	22,699	22,692

② 承認内訳

新 規	継 続	転 入	変 更	再発行	合 計
2,388	15,165	252	4,673	214	22,692

③ 電話相談（自立支援医療費、精神障害者保健福祉手帳等）

* 電話相談件数

年 度	医療機関・薬局等				市町村				申請者等				その他機関				合 計			
	医療	手帳	その他	計	医療	手帳	その他	計	医療	手帳	その他	計	医療	手帳	その他	計	医療	手帳	その他	計
29	721	107	21	849	1,382	726	7	2,115	128	43	5	176	82	27	75	184	2,313	903	108	3,324
30	494	70	12	576	1,260	685	14	1,959	106	48	8	162	97	32	29	158	1,957	835	63	2,855
元	522	68	0	590	1,543	786	3	2,332	174	32	1	207	13	24	19	56	2,252	910	23	3,185

1 6 精神障害者保健福祉手帳

(1) 目 的

精神障害者保健福祉手帳（以下「手帳」という。）は、一定の精神障害の状態にあることを認定して交付することにより、手帳の交付を受けた者に対し、各方面の協力により各種の支援施策が講じられることを促進し、精神障害者の社会復帰の促進と自立と社会参加の促進を図ることを目的とする。

（「精神障害者保健福祉手帳制度実施要領」平成7年9月12日、健医発第1132号）

(2) 事業の内容

① 精神障害者保健福祉手帳の申請・承認状況

年 度	申 請 数	承 認 数
29	4,275	4,259
30	4,421	4,410
元	4,849	4,829

② 承認内訳

内 訳	1 級	2 級	3 級	合 計
新 規	70	420	890	1,380
更 新	183	1,486	1,231	2,900
転 入	10	70	57	137
等級変更	11	34	0	45
再 発 行	5	41	39	85
履歴変更	18	115	149	282
合 計	297	2,166	2,366	4,829

③ 電話相談（自立支援医療費、精神障害者保健福祉手帳等）

* 電話相談件数 前ページ参照

1 7 精神障害者就労支援

(1) 目的

精神障害者の雇用の義務化（平成30年）を受けて、精神障害者の就労相談が増加する中、主に精神保健福祉の視点から、企業に対する精神障害への理解促進、当事者対応への相談、就労支援機関等への助言を実施し、支援の強化を目指す。

(2) 事業の内容

① 精神障害者就労支援アドバイザー

就労支援機関との会議や研修会の出席、企業等への助言を行った。

② 技術援助、技術指導件数（再掲）

年度	技術指導・援助件数	合計
元	72	72

③ 技術援助・対応状況

電話	来所	出張	その他	合計
0	2	68	2	72

④ 技術援助・対象機関別形態内容

区分	医療施設	福祉事業所	就労支援 機関	企業		その他	合計	
				件数	のべ		件数	のべ
研修会講師派遣	1	3	43	0	0	0	47	47
会議等への出席	0	0	7	0	0	0	7	7
知識、情報の提供	0	0	0	9	9	0	9	9
その他	0	2	4	0	0	3	9	9
合計	1	5	54	9	9	3	72	72

18 デイ・ケア事業

(1) 概要等

(1) - 1: 概要

当センター デイ・ケアの利用者は20～40代が主体で若年層が中心である。よって、社会参加の前段階として、生活リズムの改善や対人交流の機会、社会生活技能の習得を目標に、通所を開始する者が多い。統合失調症のほか、気分障害や最近では発達障害等も含め幅広く対応していること、重複障害を有するなど集団適応に向けて密な支援を要する事例を受け入れていることも特徴である。個別担当制と他機関との連携によるきめ細かなケアを行っている結果、障害も含めて自己受容が進み、各種の社会資源を活用して社会復帰を果たす利用者も多い。

令和元年度の取り組みは以下のとおりである。

①発達障害者向けの専門プログラム「コミュニケーションゼミ」の運営

青年期以降になってから発達障害(いわゆる大人の発達障害)と診断され、その間、転院を繰り返していたり、就労や就学が困難といった状況に陥り、当センター デイ・ケアの利用に繋がるケースが増加している。障害特性ゆえに集団になじみにくく、対応に専門的な知識や工夫を要する発達障害者を対象に開発された「発達障害専門プログラムパッケージ」(平成25年度・26年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業により昭和大学発達障害医療研究所が作成)を元にした、「コミュニケーションゼミ」を試行運用を経て平成29年度より本格的に実施。このプログラムは互いの思いや悩みを共有すること・新しいスキルを習得すること・自己理解を深めること・自分自身に合った「处世術」を身につけることを目的に、令和元年度は毎週月曜午後に、2クール実施した。参加者からは同じ障害を抱える者同士の交流によって安心感が得られたり、コミュニケーション面での良い変化がみられている。

②関係諸機関(医療機関、障害者就業・生活支援センター等)に訪問・電話などでコンタクトをとって、地域のニーズや、続々と設立される就労支援事業所の現状を把握するとともに、当センター デイ・ケアの特色や実績をPRしたり、メンバーへの支援に役立っている。本年度は発達障害に携わる医療関係者に対して支援者体験会を実施し多くの関係機関の方に参加していただいた。

③金曜午後「自主活動」での所外活動

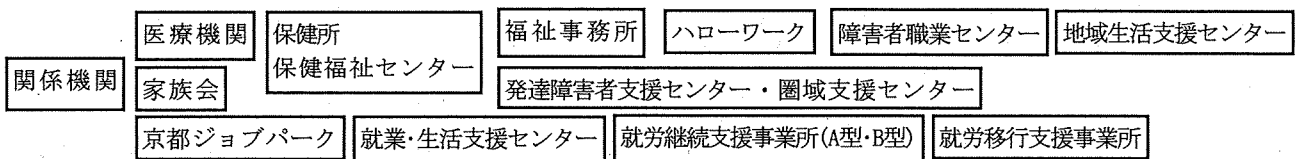
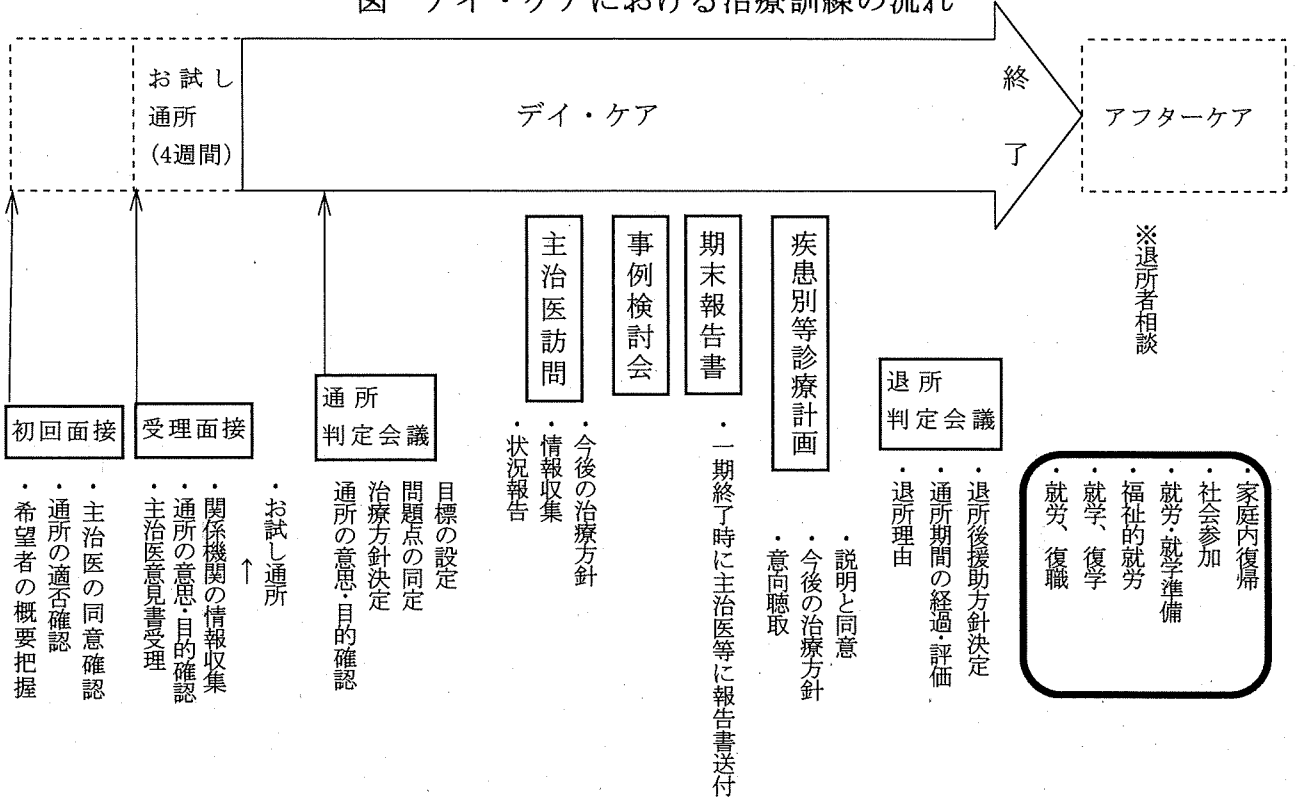
各回ごとにメンバーで活動内容を話し合っ決めて決めるようになった「自主活動」も軌道にのり、本年度はハロウィンパーティー、チョコレートの銘柄当てゲーム、スライム作りなど、アイデアに富んだ活動が企画、実施された。

<週間プログラム(第66、67期)>

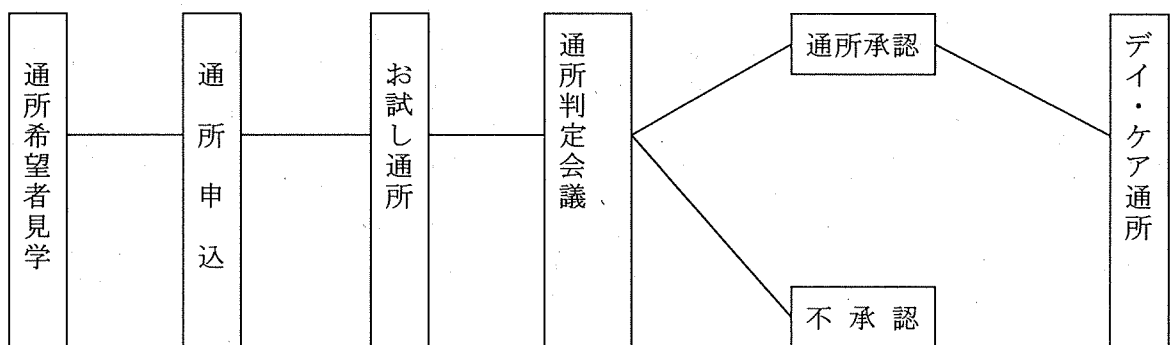
区分	月	火	木	金
午前	コミュニケーションセミナー (発達障害以外の方のみ)	ヨガ 料理(月1回)	創作活動 表現(音楽) スポーツ(月1回)	就業生活セミナー
午後	コミュニケーションゼミ (発達障害の方のみ)	就業生活セミナー	創作活動 表現(演劇) パン作り(月1回)	合同ミーティング 自主活動

各期はじめに各通所者が自ら目標を設定。期中(約3ヶ月後)に「目標ふり返り」(今期の目標をふり返り、達成度を自己評価し担当職員からフィードバックする)を行い、期末にも担当職員とともに最終的な「目標ふり返り」を行っている。

図 デイ・ケアにおける治療訓練の流れ



(1) - 2: 入所まで



区分	第66期	第67期
入所希望見学者	29	21
通所申込者数	14	13

(1) - 3:通所及び退所者の状況

① 属性

通所実人員	年齢構成	診断名(*重複障害はダブルカウント)	居住地
61人 男性 35人 女性 26人	平均36.59歳	ICD-10における診断カテゴリー	京都市 45人
	最少17歳	F0 0人 F5 0人	京都府内
	最高60歳	F1 3人 F6 1人	乙訓 3人
	10代 4人	F2 15人 F7 5人	山城北 13人
	20代 17人	F3 25人 F8 23人	山城南 0人
	30代 15人	F4 12人 F9 3人	南丹 0人
	40代 16人	G40 1人	他府県 0人
	50代 9人		

② 参加状況

開設日数	通所延べ人数	1日平均通所者数
179日	2,481人	13.9人

③ 所外プログラム *週間プログラムに関しては18 デイ・ケア事業(1) 概要等を参照

日時	プログラム	行き先	内容	人数
令和元年 5月17日	社会見学	相国寺・京菓子資料館	左記の見学と観覧	17
令和元年 6月4日	就業生活セミナー	就労継続支援B型・生活訓練事業 「くらしおうえんセンターカリダ」	左記の見学と観覧	13
令和元年 7月5日	就業生活セミナー	ピースフルリンク	左記の見学と観覧	11
令和元年 7月8日	コミュニケーションゼミ	就労移行支援事業所 「エンカレッジ京都」	左記の見学と観覧	11
令和元年 7月26日	社会見学	京都国立近代美術館及び周辺	左記の見学と観覧	14
令和元年 11月15日	社会見学	川島織物工場・文化館	左記の見学と観覧	14
令和2年 1月24日	就業生活セミナー	就労移行支援事業・就労継続支援B型事業 社会福祉法人 光彩の会 朱雀工房	左記の見学と観覧	13
令和2年 1月27日	コミュニケーションゼミ	就労移行支援事業所 「アステップ むろまち」	左記の見学と観覧	12
令和2年 3月13日	社会見学	東映太秦映画村	中止(新型コロナウイルス感染症の拡大防止)	

④ 就業生活セミナー
 <第66期>

	日 程	内 容	目 的
1	4月9日	オリエンテーション	プログラムを知る、関心・参加意欲を持つ
2	4月16日	ボディーワーク	自分の体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
3	4月23日	生活管理	生活を自分で管理する、より良くする、続けるためにできることを考える
4	5月7日	ウォーキング（安楽寿院）	体力作り
5	5月14日	ゲーム（ピンポンリレー、新聞紙玉入れ、新聞紙タワー）	体力作り グループの協調性を考え高める
6	5月21日	ボディーワーク	自分の体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
7	5月28日	プレゼンテーション（デイ・ケアの歌をグループで作成し発表する）	グループへの貢献方法、他者と協力できる方法を見つける
8	6月4日	事業所見学（くらしおうえんセンターカリダ）	自立訓練、就労継続支援B型事業の実際を知る
9	6月11日	ウォーキング（伏見稻荷大社）	体力作り
10	6月18日	ボディーワーク	自分の体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
11	6月25日	暑中見舞いのはがき作り	作業能力、協調性の向上 季節のしきたりを知る
12	7月2日	不眠・睡眠講座	不眠・睡眠について正しい知識を獲得し生活管理に生かす
13	7月9日	ゲーム（ペタンク、テニポン）	体力作り グループの協調性を考え高める
14	7月16日	ボディーワーク	自分の体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
15	7月23日	ゲーム（ペタンク、テニポン）	体力作り グループの協調性を考え高める
16	7月30日	作品作り（段ボールパッチワークをみんなで作ろう）	作業能力、協調性の向上
17	8月6日	おやつ探検隊（カルビー）	食生活や栄養バランスを間食の量や摂取時間から見直す
18	8月20日	ボディーワーク	自分の体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
19	8月27日	生活習慣病講座	生活習慣病について正しい知識を獲得し自分の生活管理に生かす
20	9月3日	コミュニケーション	グループでのコミュニケーションの傾向を知り今後役に立てる
21	9月10日	ふりかえり	今期のまとめ、来期に向けて
22	9月17日	ボディーワーク	自分の体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る

<第67期>

	日 程	内 容	目 的
1	10月8日	オリエンテーション	目的、内容確認
2	10月15日	ボディーワーク	自分の身体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
3	10月29日	秋の創作（手漉き和紙作り）	作業能力の向上、計画性、創造性、集中力を養う。 秋の草花を漉きこんで季節を味わう
4	11月5日	ウォーキング（城南宮）	体力作り
5	11月12日	運動会（フーフー、綱引き、 ○×クイズ、障害物競走）	体力作り、協調性の向上
6	11月19日	ボディーワーク	自分の身体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
7	11月26日	プレゼンテーション（興味を持 てる記事について）	必要なことを選び内容・感想をまとめる、 人前で発表する力をつける
8	12月3日	ウォーキング（京都エcoloジー センター）	体力作り
9	12月10日	睡眠の話	正しい情報、知識を得てより良い生活習慣を 身につける
10	12月17日	ボディーワーク	自分の身体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
11	12月24日	クリスマス会	目的達成のために他社と意見交換しながら準備。 自分の役割を果たし、季節行事を楽しむ
12	1月7日	年始行事（初釜、書き初め、双 六、大型カルタ）	集中力、協調性を養う 季節の楽しみを味わう
13	1月14日	疲労、体調管理について	自分の心身の調子・症状を知る、再発予防
14	1月21日	ボディーワーク	自分の身体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
15	1月28日	創作活動（ハーバリウム作り）	作業能力の向上、計画性、創造性、集中力を 養う。作品作りの楽しみを知る。
16	2月4日	お菓子作り（チョコチップクッ キー）	バレンタインに備える 作業能力の向上
17	2月18日	ボディーワーク	自分の身体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
18	2月25日	ゲーム（テニポン）	体力作り、協調性の向上
19	3月3日	ウォーキング（市民防災センタ ー）	体力作り
20	3月10日	ボディーワーク	自分の身体に意識を向ける リラクゼーションの方法を知る
21	3月17日	ふりかえり	今期のまとめ、来期に向けて

⑤ 発達障害専門プログラム

平成25年度・26年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業により、昭和大学発達障害医療研究所が作成した「発達障害専門プログラムパッケージ」を元に、月曜午後に「コミュニケーションゼミ」というタイトルで発達障害専門プログラムを平成29年度から本格実施した。

2クール(平成31年4月～令和元年9月、令和元年10月～令和2年3月)で開催し、対象は昨年度と同様①現主治医から発達障害(主に自閉スペクトラム症)と告知済み、②集団治療に一定程度適応可能な者とした。

昨年度から引き続き2クールとも参加した通所者もいた。今回1クール目の登録者11名で開始し最終16名となったため、2クール目からは2グループに分けて実施した。1クール目の参加者は常時10名前後～12名であった。2クール目の登録者総数は14名で各グループ7名とし、参加者は各グループ常時3～5名であった。

デイ・ケア以外の社会資源に関心を示す通所者も多く、2クール目の「社会資源を活用する」回では、就労移行支援事業所の見学に出かけた。

回数	日程	回数	日程	内容
1	4月8日	1	10月7日	自己紹介、オリエンテーション コミュニケーションについて
2	4月15日	2	10月21日	あいさつをする／会話を始める 会話を続ける
3	4月22日	3	10月28日	会話を終える
4	5月13日	4	11月11日	障害理解／発達障害とは？
5	5月20日	6	11月25日	ピア・サポート①
6	5月27日	5	11月18日	表情訓練／相手の気持ちを考える
7	6月3日	7	12月2日	感情のコントロール①(不安)
8	6月10日	8	12月9日	感情のコントロール②(怒り)
9	6月17日	9	12月16日	上手に頼む／断る
10	6月24日	11	1月20日	社会資源を活用する①
11	7月1日	12	1月27日	社会資源を活用する②
12	7月8日	10	12月23日	相手への気遣い
13	7月22日	13	2月3日	アサーション(非難や苦情への対応)
14	7月29日	14	2月10日	ストレスについて
15	8月5日	15	2月17日	ピア・サポート②
16	8月19日	16	2月2日	自分の特徴を伝える①
17	8月26日	17	3月9日	自分の特徴を伝える②
18	9月2日	18	3月16日	相手をほめる
19	9月9日	19	3月23日	卒業式／ふり返り

⑥ 作品の展示・発表

各期の期末には、創作プログラムで制作した作品を展示する「作品展」および演劇プログラムの「発表会」を開催している。退所者・家族等の多数の関係者が訪れ、日頃の活動の成果を鑑賞してもらう機会となっている。

	作品展	演劇発表会
66期	令和元年9月17日(火)～9月20日(金) 陶芸・ペン習字・手工芸・クラフト・美術 等	令和元年9月19日(木) 即興劇「ハピネス～君だけの声を聴かせてよ～」
67期	令和2年3月17日(火)～3月23日(月) 陶芸・ペン習字・手工芸・クラフト・美術 等	令和2年3月19日(木) 創作劇「芸能学園物語～魅せよう、私達の舞台(ステージ)を！」

⑦ 社会復帰関連活動 (1) - 3 ③所外プログラムでの活動数を含む

区 分	件 数	対象延べ人員
障害者職業相談室	1	1
障害者職業センター	1	1
はあとふるジョブカフェ	0	0
就業・生活支援センター	1	1
就労移行支援	4	27
就労継続支援A型	0	0
就労継続支援B型	8	21
生活訓練	1	9
デイ・ケア	0	0
保健所、保健センター	2	2
地域生活支援センター	1	1
支援団体	0	0
主治医訪問	1	1
実習先・職場訪問	0	0
その他	1	6
合 計	21	70

⑧ 転帰

区 分	男	女	合計
就労、復職	1	1	2
就学、復学	0	0	0
福祉的就労	2	3	5
就労、就学準備(うち就労移行支援事業所)	0(0)	0(0)	0(0)
社会参加	2	1	3
家庭内復帰	0	1	1
通所意志喪失	5	4	9
病状悪化	2	1	3
その他	1	0	1
継続通所	22	15	37
合 計	35	26	61

⑨ 退所者等援助活動 (再掲)

	来所相談実人員	来所相談延件数	電話相談延件数
退所者	13	35	272
家族	26	55	42
関係機関	37	42	141
合 計	76	132	455

(2) 通所者家族教室等

① 通所者家族支援

第66期家族教室

日時	内 容	参加人数
4月19日	家族交流会・意見交換会・職員紹介	3
5月24日	本人への関わり方 ～発達障害の方のご家族を中心に～	6
6月21日	本人への関わり方 ～統合失調症、不安障害の方のご家族を中心に～	5
7月19日	退所者の経験談	12
8月26日～9月6日	家族相談日(担当職員と個別面接)	14
9月17日～20日	家族参加日(作品展、演劇発表会見学)	3

第67期家族教室

日時	内 容	参加人数
10月18日	精神疾患基礎知識 「発達障害について」	4
11月22日	地域にある相談先 ～デイ・ケア修了後の進路について～	13
12月20日	精神疾患基礎講座 「生活に密着した自律神経の話」	7
1月17日	プログラム見学体験会 ～通所者の活動の様子とプログラムの実際～	2
2月17日～2月28日	家族相談日(担当職員と個別面接)	13
3月17日～23日	家族参加日(作品展、演劇発表会見学)	4

(3) 学生実習(再掲)

区分	医師	看護師	O T	PSW	その他	合計
実習件数	14	0	0	0	0	14
実習人数	82	0	0	0	0	82
実習延人数	82	0	0	0	0	82
実習延日数	14	0	0	0	0	14

(4) 関係諸機関との連携

① 訪問など

関係諸機関に訪問・電話連絡などを行って地域のニーズを把握することで、当センター
デイ・ケアの活用を提案したり、メンバーへの支援に役立てた。

	訪 問	来所相談
医療機関	0	0
就労移行支援事業所	1	2
就労継続支援A型事業所	0	0
就労継続支援B型事業所	0	2
その他	1	0

(1)-3⑦社会復帰関連活動数
(メンバー付添い)は含まず

② 京都デイ・ケア連絡会

京都府内の精神科デイ・ケア施設職員が集い、現場で役立つ実際的な情報交換を目的に、平成7年に発足した。令和元年度は31施設会員、1個人会員が加入していた。発足以来当デイ・ケアが事務局を務めており、例会や総会以外に年3回実施している運営委員会にも出席している。活動内容は年2回の例会（輪番制で会員施設の見学や概要説明など）と、年1回の総会や講演会、シンポジウムなどを行っている。

	開催年月日・場所	内容・話題提供担当
76回	令和元年6月15日（土） 里地会クリニック 参加者数 33名	里地会クリニックデイ・ケア「だんだん」の概要説明及び見学 意見交換会（経験年数別グループ）
77回	令和元年10月19日（土） 高木神経科医院 参加者数 25名	高木神経科医院デイ・ケア「おいけ」の概要説明及び見学 意見交換会（職種別）
78回	令和2年2月15日（土） 京都博愛会病院 参加者数 34名	①『発達障害アンケート』結果 報告者 長岡記念財団 長岡病院 精神科デイケア兼リハビリテーション部 安井 智紀 課長 ②講演会 『デイ・ケアを利用した発達障害者支援』 講師 京都府精神保健福祉総合センター 医療福祉課長 中嶋 義幸 ③意見交換会 ④2020年総会 ⑤京都博愛会病院デイケア「美登呂」の概要説明及び見学

1.9 災害支援

(1) 目的

- ・災害時において、被災地域及び他の都道府県の関係機関と連携して精神保健の確保を図る。
- ・平時から災害が起こった時の適正な支援の方法について知識の普及を図る。

(2) 災害発生時の支援等の実績（平成28年度以降の実績を記載）

平成28年度	<p>●平成28年4月14日以降の熊本地震に関し、厚生労働省(DPAT事務局)からの要請に基づき、京都府DPATチームとして所長(京都府DPAT総括責任者)のもと当センターより精神科医1名、PSW1名を派遣した。</p> <p>① 活動期間 平成28年4月26日から6月1日(月)まで、計7班28名を派遣</p> <p>② 派遣先 熊本県菊池郡大津町避難所</p> <p>③ チーム構成員 精神科医師、看護師、精神保健福祉士・臨床心理士、事務職等3名から5名程度</p> <p>④ 参加機関 京都府(障害者支援課、少子化対策課、薬務課、京都府精神保健福祉総合センター、京都府立洛南病院)、京都大学医学部、京都府立医科大学</p> <p>⑤ 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の現地巡回業務、診察、相談 ・ 活動拠点本部業務 <p>⑥ 活動報告会</p> <p>a) 日時:平成28年7月28日(木)16:00~19:00</p> <p>b) 場所:ルビノ堀川 平安の間</p> <p>c) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一部 研修 講義:「DPAT活動の実際」 講師:渡 路子 氏(厚生労働大臣委託事業 DPAT事務局 次長) ・ 第二部 各チームメンバーより活動報告会
平成30年度	<p>●平成30年6月18日 7:58に発生した大阪府北部地震に対応し、同日、京都府健康福祉部障害者支援課内にDPAT調整本部を立ち上げた。府内の精神科病院に被災がないこと等、精神保健医療のニーズと提供体制を確認し、6月20日9:00、DPAT調整本部を解散した。</p> <p>●平成31年2月3日 近畿地方DMAT訓練に府立洛南病院(DPAT先遣隊)、当センター(DPAT統括者)、障害者支援課(DPAT事務担当者)が参加した。DPAT調整本部機能訓練とDPAT先遣隊、DMATとの協働訓練を行った。</p>

令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 京都アニメーション大規模火災関係 京都アニメーション第1スタジオの大規模火災を受けて、令和元年7月26日、被害に遭われた方やその関係者らの心のケアを行う「こころの相談窓口」を設置した。対応した相談の件数は、京都府で10件(令和元年度末)であった。 ● 災害医療検討会議 京都府における、災害時の精神医療保健について、京都府立洛南病院、京都府障害者支援課と協議を行った。(令和元年8月1日・9月26日) ● 災害時等対応連絡会議 近畿ブロックセンター長会とあわせて開催し、近畿府県市と災害時の精神保健について意見交換、協議を行った。(令和元年9月6日)
-------	---

このようなことは
思いあたりませんか？

からだの変化

- 疲労・めまいを覚える
- 頭痛・肩こり・腰痛
- 吐き気・胃痛
- 食欲不振・過食
- 不眠・悪夢をみる

考え方の変化

- 同じことを繰り返し考える
- 考えがまとまらない
- 記憶力が低下している

気持ちの変化

- 気分の浮き沈みが激しい
- 涙もろい・イライラする
- あの時ああすれば良かった
という自責感
- 自分は何もできないという
無力感
- なげやりになったり皮肉な
考え方をする
- 他人に対して怒りを覚える
- 緊張や不安が高い

これらの状態は数週間程度はつづく
ことがあります。長続きしません

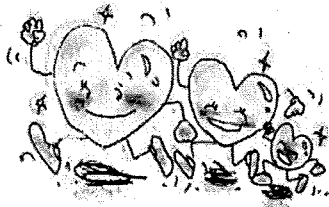
(出典：心的トラウマの理解とケア第2版 臨床外傷ストレス障害
学会 書籍 付録10災害時配布のパンフレット見本 P328より
一部引用 (株) じほう)

事故後1ヶ月以上
経っても…

事故からしばらくすると、身体や
こころの状態は回復してくるのですが私たち
の「からだ」と「こころ」に非常に強い衝撃
が加わりすぎると、その体験が過ぎ去った後
も記憶のなかに残り、「からだ」と「こ
ろ」に影響を与え続けることがあります

このように災害でもたらされた「こころのケ
ガ」のことを「トラウマ」といいます。

災害の体験によって、引き起こされる
「からだ」と「こころ」の反応は、「災害後
のストレス反応(トラウマ反応)」といえま
す。



おもな災害後のストレス
反応について

事故後のストレス反応のひとつに
PTSD(外傷後ストレス障害)があり次の
ような状態になることをいいます。

①「事故による体験が、自分の意思とは関係
なく気持ちの中に入ってきて、その時と同じ
気持ちがよみがえる。」

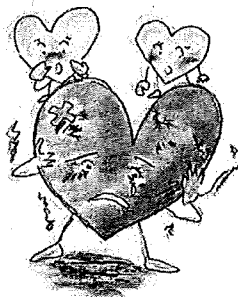
②「あらゆる物音や刺激に対して気持ちが張り
つめてしまい、不安で落ち着くことができ
ず、いらだちやすくなりにくくなる。」

③「あたかも事故の体験(トラウマ
体験)が意識から切り離されたようになり、
体験の記憶や実感が乏しくなる。周囲の人々
や自分の未来からも切り離されたように感じ、
人々との自然な交際や、将来の計画ができな
くなる。」

ポイント
災害の後、約1ヶ月たったときに、
上記の状態が続いている場合にはじ
めて
PTSDということが考えられます。

こころも「ケガ」を
するのです

事故によるショックで、こころは大き
なケガをしてしまいます。
こころがケガをするといういろいろな
ことが起こります。
些細なことでイライラする、夜眠れ
ない、その時の夢を繰り返し見る、
その時の光景が何度も思い浮かぶ、
誰とも話す気になれない…などなど
また身体の調子にも影響することが
あります。
これらは多くの場合、自然に回復
していきますが、回復までに時間か
かることがあります。

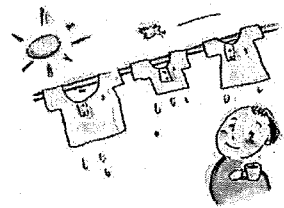


相談窓口

保健所
お近くの保健所では、こころの相談窓口を開設し、精神保健
福祉相談員、保健師などが応じています。

- 乙訓保健所(向日市、長岡京市、大山崎町) 電話: 075-983-1154
- 山城北保健所(宇治市、加藤町、久津山町) 電話: 0774-21-2193
- 山城北保健所朝高分室(川柳町、京田辺市、井手町、宇治田原町) 電話: 0774-63-5745
- 山城南保健所(大津市、笠置町、利美町、津原町、南山村) 電話: 0774-72-0979
- 南丹保健所(亀岡市、鹿野市、京丹波町) 電話: 0771-62-0361
- 中丹西保健所(船場山市) 電話: 0773-22-5766
- 中丹東保健所(島津市、城陽市) 電話: 0773-75-3903
- 丹後保健所(田原市、京丹波町、伊根町、津美野町) 電話: 0772-62-4302

事故に巻き込まれたり
目撃された方の
こころの健康について



事故に巻き込まれたり、目撃したりすると
これまでに感じたことのない気持ちの変化や
からだの不調が起こることがあります。
それらは多くの人が普通に経験するもので、
決して特別なものではありません。つらい体
験は、早く忘れてしまいたいと思うかもしれ
ません。でも、その影響は予想外に長く続く
ことがあります。
症状が長引いたり、気になる症状があるよ
うでしたら、ぜひ相談してください。

京都府

こころの健康相談電話

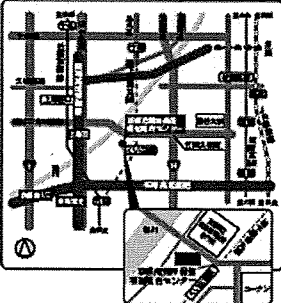
- ・こころが疲れていませんか？
- ・仕事のことや悩んでいませんか？
- ・家族のことや悩んでいませんか？
- ・お酒や薬物などで悩んでいませんか？
- ・青年期のこころの危険信号がみられませんか？

●こころの健康に関する相談をお聞きします。
※京所直轄のこころの悩もまずこちらにお電話してください。
※京所庁(京都市を除く)にお住まいの方の相談窓口です。

TEL/075-645-5155
(月曜～金曜・年末年始、祝日除く)午前9時～12時、午後1時～4時

●京都市にお住まいの方は、
京都市こころの健康増進センター TEL/075-314-0874 にお電話してください。
(月曜～金曜・年末年始、祝日除く)午前9時～12時、午後1時～4時

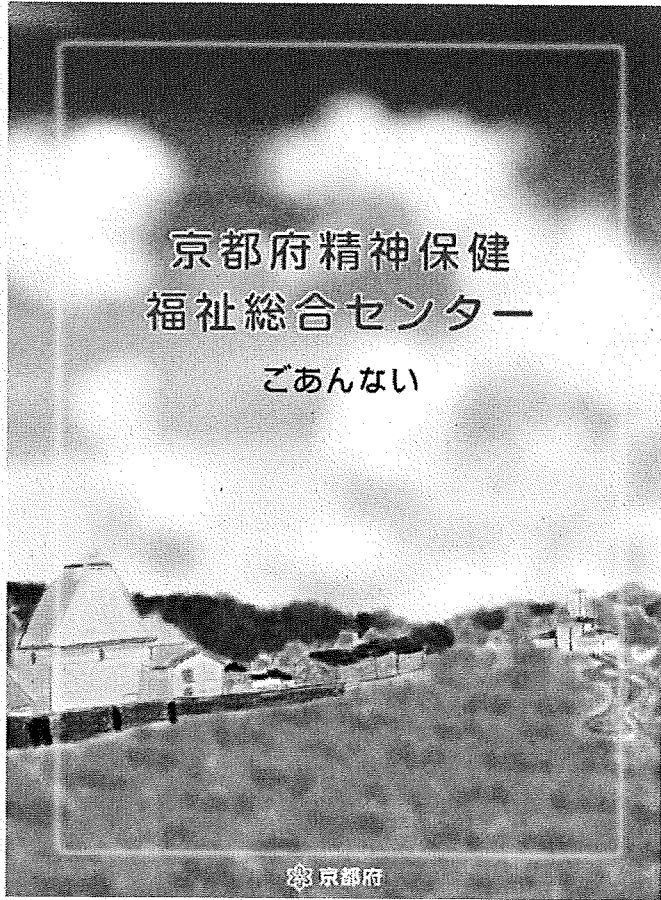
お問い合わせ内容	電話番号
・こころの健康相談電話、京所直轄に關して	TEL/075-645-5155
・施設請求に關して	TEL/075-641-2160
・精神科デイケア見学予約に關して	TEL/075-641-1890
・普及啓発(講演依頼)等、地域精神保健福祉活動に關して	TEL/075-641-1810
・精神障害者保健福祉手帳に關して(作成説明、申請方法はお申し込みください) ・自立支援医療(精神通院)の支給認定、支給管理に關して(申請書、届出書類、利用方法は申請書をご提出ください)	お住まいの市町村 担当課



京都府精神保健福祉総合センター
〒612-8416
京都市伏見区竹田流池町 120
TEL/075-641-1810 FAX/075-641-1819
<http://www.pref.kyoto.jp/health/>

利用交通機関

- 地下鉄 【くいな橋駅】下車北口(1番出口)すぐ
- 近鉄 【上海羽田駅】下車東へ徒歩10分
- 京阪 【深草駅】下車西へ徒歩15分
- バス 京都市バス【竹田久保駅】下車西へ徒歩6分



業務の「であんない」

府民のこころの健康のために

- 精神保健福祉119(緊急相談、こころの健康相談専用)
- こころの健康センター(無料、通称90秒) アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症及び認知症等のセルフケアを行っています。
- 相談予約制です。「こころの健康相談電話」からご予約ください。TEL/075-645-5155
- 京都市にお住まいの方は、京都市こころの健康増進センター TEL/075-314-0874 にお電話してください。(月曜～金曜・年末年始、祝日除く)午前9時～12時、午後1時～4時

地域精神保健福祉活動の推進のために

- 巡回巡回 ● 巡回巡回 ● 巡回巡回 ●

精神障害に関する手帳や支給者証について

- 精神障害者保健福祉手帳について ●
- 自立支援医療(精神通院)の支給認定、支給管理の交付 ●

精神障害者の人権に配慮した住居を確保するために

- 精神障害者住居確保の支援 ●
- 住居確保のための相談窓口 ●

精神障害のある方の社会復帰・社会参加の促進のために

- 精神科デイケアとは ●
- 利用方法 ●

精神障害者の人権に配慮した住居を確保するために

- 精神障害者住居確保の支援 ●
- 住居確保のための相談窓口 ●

精神科デイケアとは

時間	月曜日	火曜日	水曜日	金曜日
午前	コミュニケーションセンター(高齢者以外の方対象)	当分	創作活動	就業生活セミナー
午後	発達障害者支援プログラム(発達障害の方対象)	就業生活セミナー	創作活動	就業生活セミナー

※精神科専門プログラム ※主治医から医師受診プログラムと併用を受けている方を対象に、コミュニケーションについて学習するプログラムです。

京都府精神保健福祉総合センター 所報

令和2年7月発行

編集・発行 京都府京都市伏見区竹田流池町120

郵便番号 612-8416

電話 (075) 641-1810

F A X (075) 641-1819